

# 令和元(2019)年度 通常総会・資料

ながの環境パートナーシップ会議

日時:令和元(2019)年6月 16 日(日)午前 10 時から

場所:長野市リサイクルプラザ 2階 大会議室

# ながの環境パートナーシップ会議通常総会次第

日時：令和元（2019）年6月16日（日）午前10時から正午

場所：長野市リサイクルプラザ2階 大会議室

## 1 開 会

## 2 代表理事あいさつ

## 3 議長選出

## 4 議 事

### (1) 平成30（2018）年度活動報告について

①ながの環境パートナーシップ会議の活動概要 (P 1～)

②プロジェクトチームの活動報告 (P 10～)

プロジェクト名	H30 活動報告 ページ	R1 目標・活動 計画等 ページ
生ごみ削減・再生利用	11	27
レジ袋使用削減	12	28
市民の森づくり	13	29
太陽エネルギー普及促進	—	30
聖山自然復元	14	31
子どもの環境学習支援	15	32
ながのカーボンオフセット	—	33
小生物の育成環境保全	16	34
ぼんすけ育成	17	35
ゴマシジミ保護・育成	18	36
生態系豊かな、水に親しめる川づくり	—	37
田中さくら公園作り&里山づくり	19	38

(2) 平成30（2018）年度収支決算報告について (P 20～)

平成30（2018）年度監査報告について (P 21～)

(3) 令和元（2019）年度運営方針(案)について (P 22～)

(4) 令和元（2019）年度活動目標・活動計画(案)について (P 26～)

(5) 令和元（2019）年度収支予算(案)について (P 39～)

(6) 会費規程の一部改定について (P 40～)

(7) その他

## 5 閉 会

# 平成 30 (2018) 年度ながの環境パートナーシップ会議活動報告書

## 活動の概要

平成 30 (2018) 年度は、長野市の環境ビジョンの実現に向け「つなぐ・伝える・行動する」を行動指針とし、プロジェクト、フォーラム、広報活動などに取り組みました。また、昨年度に見直しを行った、本会の行動指針である「アジェンダ 21 ながの-環境行動計画-」に基づき、新たなプロジェクトの創設や事業者・他団体との連携など、新たな協働による環境活動を展開しました。

## 1 各プロジェクトの活動

### (1) プロジェクト及びスペシャルプロジェクトへの取り組み

#### ① 生ごみ削減・再生利用プロジェクト

キッズ生ごみ農園クラブを創設してから3年が経過。生ごみの堆肥を利用して野菜を収穫し、夏と秋に収穫祭を開催したほか、生ごみと野菜の交換市を8月～11月まで定期的に開催、朝市で野菜の販売もできました。また、各種イベントに参加(信州環境フェア及びアモーレフェスタにて展示説明、プレゼンステージ「楽しい生ごみ教室」、クイズ等)し、啓発活動を実施しました。

自治協と共催の「生ごみ堆肥化講座」「エコ料理教室」は、生ごみを減らして堆肥を家庭菜園等に活用する地域内循環を呼び掛け6年経ち定着してきています。

#### ② レジ袋使用削減プロジェクト

啓発用ツールのパンフレットを長野市内の全小学校に配布しました。これらの活動が実りマイバッグ持参率が3年連続で60%を超えました(平成30(2018)年度:67.5%)。

#### ③ 市民の森づくりプロジェクト

平成30(2018)年度は里山散策、高校生の森林整備体験、かんじき体験会、きのこの駒打ち体験会などの活動を実施しました。第二の市民の森選定作業は進みませんでしたが、「あさかわの里山と森を守る会」との合同作業など地元の方々とのつながりを進める活動ができました。しかし、本年度は作業中断の期間があり、活動参加者は年間400名程度でした。他のチームなどとも協力し、体験会なども活用の上、活動の輪を広げて行きます。

#### ④ 太陽エネルギー普及促進プロジェクト

活動継続に向けて調整中。令和元年度はリーダーを交代して活動を再開する予定。

#### ⑤ 聖山自然復元プロジェクト

リーダーの体調不良等諸事情により計画していた現場での活動ができませんでした。

#### ⑥ 子どもの環境学習支援プロジェクト

中高生、大学生を対象とした環境学習の支援として「国際ユース環境会議」(開催場所:信州大学教育学部しなのき会館)を開催し、26名のユースの参加を得て、「2030年の長野の環境と生活」をテーマに環境ワークショップや英語でのディスカッション等を行いました。韓国、中国、アメリカ、カナダ、ブラジルの5か国の外国籍ユース等と英語によりコミュニケーションを図ることで、ユースの視野の拡大を図りました。

都市農研究会や環境保全協会、NPOみどりの市民等いくつかの環境団体との連携および協力関係を構築することができました。

#### ⑦ ながのカーボンオフセットプロジェクト

事業者・団体・市民が手軽に参加できるカーボンオフセットクレジット(CO2排出権)の制度設計を予定していたが、具体的な活動の展開には至りませんでした。

### ⑧ 小生物の育成環境保全プロジェクト

小学校の観察会は昨年の2校から5校に増え、例年通り地元小学校児童生徒や市民を対象とした自然観察会を開催したほか、オオムラサキ繁殖地の整備（下草刈り・間伐・外来植物ニワウルシの除伐・飼育舎の設置等）を実施したことにより、越冬幼虫調査の結果、多くの幼虫を確認することができました。竹の入の入口の看板を加藤市長に書いていただき、11月に市長をお招きして除幕式を行いました。

### ⑨ ぼんすけ育成プロジェクト

ぼんすけ（シナイモツゴ）達が住むすばらしい里山の保全・再生を目指して、チーム自ら稲作と林檎の栽培を開始し「ぼんすけブランド」として販売しました。また、他団体等の協働によるため池の保全活動等を行うなどぼんすけを含む里山の保全活動が展開できました。

### ⑩ ゴマシジミ保護・育成プロジェクト

ゴマシジミの生息数が少ないため、現状維持に傾注しました。具体的には、生息地内の草刈・間伐の捕獲禁止の立て看板の作成・設置、生息地内のパトロール・注意喚起、ワレモコウの育苗・植栽・保護などを実施しました。また、ゴマシジミの一生を描いた紙芝居を作成し、啓発活動として各地で上演しました。

### ⑪ 生態系豊かな、水に親しめる川づくり（水環境保全）プロジェクト

活動継続に向け調整中。令和元年度はリーダーを交代して活動を再開する予定。

### ⑫ 田中さくら公園づくり&里山づくりプロジェクト【新規プロジェクト：平成30年5月理事会で承認。同年6月から活動を実施】

「田中桜公園」の手入れの作業を行いました。また、公園の看板を作成し、「田中桜公園祭り」でお披露目のセレモニーを行いました。

### ⑬ 第8回ながの環境団体大集合スペシャルプロジェクト

ながの環境団体大集合の開催に向け、スペシャルプロジェクトを立ち上げ、全体構成やコンテストの方法等について各種団体等との協働により企画し、開催しました。なお、チーム員として学生3名が企画段階から参画しました。

（任期：7月17日（火）から1月10日（木）まで、会議開催数：8回）

【リーダー】 赤羽和春（ながの環境パートナーシップ会議）

【メンバー】 小林（長野市市民協働サポートセンター）、武井（長野市ボランティアセンター）、渡辺（ながの環境パートナーシップ会議）、堀池（長野市地球温暖化防止活動推進センター・ながの環境パートナーシップ会議）、河西（ながの環境パートナーシップ会議）、鈴垣（信州大学工学部）、安達（信州大学工学部）、鈴木（信州大学工学部）、関口（事務局）、吉原（事務局）

## (2) プロジェクトサポーター制度について

現在5つの各プロジェクトとサポーター事業者が次のとおり協働による事業を展開しました。

平成30（2018）年度中、新たに1つのマッチングを行うことができました。引き続き、事業者との協働体制による環境活動を推進していきます。

※プロジェクトサポーター制度とは…

事業者の参画をより一層促していくため、プロジェクト活動に協働・支援・共感等いただける事業者が、直接、プロジェクト活動に、人的・活動資金・活動場所などを支援いただき、協働体制による継続的な環境活動の展開を図ることを目的に平成28年度に当制度を創設しました。

※協働事業の状況は次のとおりです。

【協働事業の状況】

プロジェクト名	サポーター事業者名	主な協働事業内容
生ごみ削減・再生利用	長野市委託浄掃事業協同組合	夏、秋の収穫祭へ組合員が参加
子どもの環境学習支援	直富商事株式会社	国際ユース環境会議へ社員を講師として派遣
小生物の育成環境保全	コマキ工業株式会社	桜の育苗事業に人的等の支援
ぼんすけ育成	信陽食品株式会社	自然観察会へ食品提供
生態系豊かな、水に親しめる川づくり（水環境保全）	株式会社公害技術センター	水質調査事業の人的等の支援

(3) 信州大学工学部「地域環境演習 I 2018」の受け入れ

信州大学工学部の「自分でPDCAサイクルを機能させて行動できる人材」の養成を目指し実施する「地域環境演習 I 2018」の受講生を、各プロジェクトチームで受け入れ、協働による環境活動を行いました。

また、9月22日には、信州大学工学部で、参加学生による活動成果発表会が行われました。

【信大生の受入人数】 4人（前年度11名）

【受入プロジェクト】 レジ袋使用削減 1人、子どもの環境学習支援 2人、市民の森づくり 1人

2 ながの環境パートナーシップ会議全体での活動

(1) 第8回ながの環境団体大集合

平成30（2018）年度は「私たちの地球環境と未来ーこれからの活動とSDGsー」をテーマに、環境活動に取り組んでいる団体や事業者などがSDGsを理解し合える場を設けるとともに、基調講演会・分科会・ポスターセッション等を実施し、参加者それぞれが今後どんな活動を行っていくべきなのか考える機会となりました。

日時：平成30（2018）年12月15日（土）午後1時～午後4時（開場：12時30分）

会場：長野市生涯学習センター4階 大学習室1・2・3、ホワイエ、控室1・2・3

【基調講演会「SDGs時代に求められる環境活動」】

講師：一般社団法人環境パートナーシップ会議副代表理事 星野智子氏

SDGsの概要、国内外の動き、推進方法など環境に視点を置いた内容で講演いただきました。特に17の目標のほとんどが環境課題とつながっていることや課題解決のためには、官民協働等多様な主体同士とのパートナーシップにより環境保全活動を推進していくことが大事であると教えていただきました。

【SDGsの取組事例発表会】

SDGsの達成に向けて取り組んでいる市内外の企業・団体の担当者をお招きして発表いただきました。

ア 株式会社八十二銀行 総務部環境室 調査役 坂本智徳氏

イ 里山ウェルネス研究会 フォレストデザイン 代表 余頃友康氏

ウ NPO 法人長野県NPOセンター 事務局長 山室秀俊氏

【ポスターセッション（ブース発表・交流）】

来場者は自由に各ブースを見学しながら、活動発表の確認や交流を行いました。また、フードドライブ及び信州子ども応援ドライブの受付コーナーを設置し、それぞれの活動を支援しました。

### 【分科会でワークショップ】

参加者全員が5つのテーマ（グループ）ごとに分かれ、SDGsの17の目標を達成するための新たな事業や仕組みづくりを考え発表していただきました。ワークショップでは、様々な意見交換が行われ、参加者同士の交流やSDGsへの理解が深められました。

### 【大集合した団体・企業・学校】

○団体 NPO法人川中島福祉体育協会、NPO法人フードバンク信州、NPO法人NPOホットライン信州、天空の里 いもい農場、里山ウェルネス研究会（フォレストデザイン）、ライトダウンながの実行委員会、NPO法人みどりの市民、NPO法人長野県NPOセンター、ユースリーチ環境部、希少種の会、地球を守る会

○企業 株式会社八十二銀行、ミサワホーム甲信株式会社、北信商建株式会社

○ながの環境パートナーシップ会議プロジェクトチーム

生ごみの削減・再生利用、レジ袋使用削減、市民の森づくり、太陽エネルギー普及促進  
聖山自然復元、子どもの環境学習支援、小生物の育成環境保全、ぼんすけ育成、

田中さくら公園作り&里山づくり

【参加者数】 111名（前年度:198名）

## (2)公開学習会 2018

本会会員のみならず一般市民等も対象に、環境について学び、考える機会を提供するために実施した。今回は、アジェンダ 21 ながのー環境行動計画ー2018 に盛り込んだ「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」の「持続可能な開発目標」(SDGs) について学習した。

【日時】平成 30 (2018) 年 11 月 13 日 (火) 午後 1 時 30 分～午後 4 時 30 分 (開場: 13 時)

【場所】長野市役所第二庁舎 10 階 講堂

【共催】長野市、信州大学工学部環境委員会

【講演会】「SDGs を理解して、行動を起こしましょう！」

講師：星野智子氏（一般社団法人 環境パートナーシップ会議 副代表理事）

### 【ミニワークショップ】

「自分の活動と SDGs のつながりを見つけよう！」ファシリテーター：星野智子氏

【参加者数】81 名（内訳：市民 3 名・各種団体 9 名・各企業 8 名・市議会議員 5 名・県職員 4 名・P 会議  
会員 16 名・信州大学 7 名・市職員 29 名）

## 3 広報

### (1) ホームページの運用

- ・各プロジェクトの出前講座やイベント等の予定及び活動報告などを掲載
- ・他団体などから情報提供されたイベント等を掲載

### (2) 平成 29 (2017) 年度活動成果報告書「手をむすんで」を発行

ニュースレター「手をむすんで」に代わる本会の活動を情報発信していくため、新たに平成 29 年度のながの環境パートナーシップ会議活動成果報告書「手をむすんで」を発行し、会員や関係機関に PR したほか、新規会員の勧誘時に活用いたしました。

【規格】 表紙 4 P 本文 32 P 中綴じ仕上げ

【印刷数】 500 部

【内容】 ・ながの環境パートナーシップ会議の案内  
・平成 29 (2017) 年度運営方針

- ・ながの環境パートナーシップ会議活動成果報告
- ・プロジェクトの活動成果報告
- ・信州大学工学部地域環境演習の報告
- ・新聞記事

【支援団体】 発行に際し、長野市地球温暖化防止活動推進センターの支援をいただきました。

### (3) イベント等への参加

#### ① 信州環境フェア 2018

【日時】 平成30 (2018) 年7月29日 (土) 午前10時～午後4時

平成30 (2018) 年7月30日 (日) 午前10時～午後4時

【会場】 長野市 ビッグハット

ながの環境パートナーシップ会議ブース来場者：320人

【内容】 ながの環境パートナーシップ会議の活動紹介 (パネル展示、パンフレット配布など)  
プロジェクト活動紹介、環境クイズ等 (生ゴミ削減・再生利用、レジ袋使用削減、  
ぼんすけ育成、田中さくら公園づくり&里山作り)

※新規会員の勧誘を行ったところ、3名が入会しました。

#### ② ながの環境フェア 2018

【日時】 平成30 (2018) 年9月30日 (土) 午前10時～午後2時30分

【会場】 長野市 リサイクルプラザ

ながの環境パートナーシップ会議ブース来場者：150人

【内容】 本会の全体的な紹介及び各プロジェクトチームの紹介  
環境クイズ及び新規会員の勧誘等

### (4) 電子メール及び facebook の活用

平成30 (2018) 年4月から電子メールにて本会会員、関係機関及び長野市役所職員宛へ各プロジェクトチーム等が開催するイベントの情報発信を開始しました。また、facebook のページを作成し、会員以外の方にも情報発信を行っております。

## 4 他団体との連携

### (1) 第8回ながの環境団体大集合への事業所・環境保全団体への働きかけ

事業所・環境保全団体との連携強化を図るため、周知を図り参加依頼を行いました。

参加団体・事業者：14団体

### (2) 「ライトダウンキャンペーン 2018in ながの」に参加協力

本会は、ライトダウンながの実行委員会の構成団体として、温暖化防止・CO<sub>2</sub>削減の啓発活動に協力しました。

【キャンペーン期間】 夏： 6月21日 (水) ～7月7日 (金) 午後8時から10時

冬： 12月7日 (金) ～12月22日 (土) 午後8時から10時

### (3) 事業所・環境保全団体との活動の連携

【生ゴミ削減・再生利用プロジェクト】

住民自治協議会と協働で、生ゴミの堆肥化講座を開催しました。

【レジ袋使用削減プロジェクト】

スーパーの協力を得て、レジ袋削減を考える会など多くの環境保全団体とともに店頭キャンペーンを行いました。

【市民の森づくりプロジェクト】

浅川地区の「あさかわの里山と森を守る会」との合同作業など地元の方々とのつながりを進める活動を実施し、協力体制の確立を図りました。

【子どもの環境学習支援プロジェクト】

「国際ユース環境会議」を、実行委員会、参加スタッフ、支援組織との協力により継続して開催しました。

【小生物の育成環境保全プロジェクト】

オオムラサキ繁殖地での活動を、住民自治協議会及び他の保全団体を含めて組織された連絡会で情報共有しながら、計画的な保全と環境学習会等を実施しました。

【ぼんすけ育成プロジェクト】

絶滅危惧種のシナイモツゴ（ぼんすけ）を保護していくため、県と連携を図りながら活動を実施しました。また、NPO法人生態工房（東京）との協働によりシナイモツゴの生息地であるため池の保全活動等を行いました。

【ゴマシジミ保護・育成プロジェクト】

長野市霊園に生息する絶滅危惧種「ゴマシジミ」の保護・育成活動を県、市及び研究機関との連携、協力により実施しました。また、浅川小学校児童の協力を得ながら、ゴマシジミの食草「ワレモコウ」の植栽を実施したほか、啓発活動として、紙芝居（がんばれ!!ゴマシジミ）を作成し、地域のボランティアクラブにこにこ一座と協力して各地で上演しました。

(4) フードドライブ及び信州子ども応援ドライブに協力

家庭で利用されていない食品・生活用品等の寄附を受け、必要とされている家庭や信州子ども食堂へお届けしているNPO法人フードバンク信州及びNPO法人NPOホットライン信州の事業に賛同し、フードドライブ及び信州子ども応援ドライブに協力しました。

事業名	実施日
フードドライブ	12月15日：第8回ながの環境団体大集合
信州子ども応援ドライブ	12月15日：第8回ながの環境団体大集合

(5) 身近な水環境全国一斉調査2018に参加

河川をはじめとする身近な水環境に対する市民の意識の高まりを受け、全国各地で数多くの市民団体等により水質調査が行われています。このような調査を全国統一の手法で同日に実施し、水環境に関する市民の理解と関心を深めることを目的に、平成16年から毎年、世界環境デー（6月5日）に最も近い日曜日を中心に全国一斉調査を実施しています。

そこで、本会では、この趣旨に賛同するとともに本会の活動の拡大と活性化を図るため、同調査活動に参加しました。

【開催日時】平成30（2018）年6月3日（日）午前8時～正午

【調査場所】長野市内の千曲川、犀川への流入河川等約50か所

【参加者数】5人



(6) 特定外来生物「アレチウリ」の駆除活動に参加協力

豊かな環境づくり長野地域会議が主催するアレチウリの駆除活動に参加協力しました。なお、本会は、同会議の会員です。

【開催日時】平成30(2018)年7月13日(金) 午前9時30分～午前11時

【駆除会場】長野市若穂牛島落合橋運動場周辺

【参加者数】9人

(7) 山の日ウォーキングに共催

山の日が制定されたことを記念し、毎年、山に親しむとともに自然の大切さや地域の歴史を理解するため開催しています。本会は、共催者として運営に携わりました(主催:長野市)。

【開催日時】平成30(2018)年8月11日(土・祝) 午前9時45分～午後1時30分

【場 所】長野市大岡聖山

【参加者数】51人

(8) 長野市環境子どもサミットに参加協力

子ども達が環境問題を理解し、地球環境について深く考え、今後の活動を契機となる場を提供するため、毎年環境子どもサミットが開催されています。本会は、主催者である同サミット実行委員会の構成メンバーとして、運営の一翼を担いました。

【開催日時】平成30(2018)年10月28日(日) 午前10時～午後1時

【場 所】長野リサイクルプラザ

【参加者数】300人

(9) 地域づくり出合いのひろば(主催:長野県長寿社会開発センター)に参加

シニア世代や地域づくりに関心のある者がボランティア活動や地域づくり活動、就業などの社会参加活動に積極的に取り組むとともに、地域・業種を超えた新たな連携や協働の創出を図るため、「人材を求める側」と「何かをしたい側」を効果的にマッチングする「地域づくり出合いのひろば」に参加し、本会の活動を大いにPRしてきました。今後も主催者である長野県長寿社会開発センターと情報共有を図りながら、新規会員の勧誘や他団体との協働連携を推進していきます。

【開催日時】平成31(2019)年1月29日(水) 午後12時30分～午後4時

【場 所】長野県社会福祉総合センター

【本会参加者】倉島事務局長、関口(事務局)

※本会ブースへ来訪した人数 男性:5人 女性:5人 計10名

※P会議と今後連携が可能と思われる団体数 3団体

(10) 「長野市ポイ捨て、道路等における喫煙等を防止し、きれいなまちをつくる条例」の施行に伴う周知・啓発活動

同条例に賛同するとともに本会の活動をアピールするため、周知啓発活動に参加しました。

【開催日時】平成31(2019)年3月20日(水) 午前7時50分～午前8時30分

【場 所】長野駅前広場及び東口デッキ周辺

【参加者数】33人

## (11) 他の環境団体等への周知

平成 29 (2017) 年度活動成果報告書「手をむすんで」やパンフレットを個人や事業所などに配付をしました。

また、各新聞に記事として取り上げられるなど環境活動をPRしました。

## 5 会議

### (1) 通常総会

日 時：平成 30 (2018) 年 6 月 17 日 (日) 午前 10 時～正午

会 場：長野市役所第一庁舎 5 階 庁議室

出席数：出席者数 98 名 (出席者 33 名+委任状 65 名 会員数 150 名)

内 容：平成 29 (2017) 年度活動報告、収支決算報告、監査報告について

平成 30 (2018) 年度運営方針 (案)、活動目標・活動計画 (案)、収支予算 (案) について

「アジェンダ 21 ながの環境行動計画-2018」(案)、会則等の一部改正 (案) について

役員 (理事・監事) の改選について

### (2) 理事会

ながの環境パートナーシップ会議の運営等について協議するため、理事会を 13 回開催しました。

第 7・11・12・13 回の理事会では、プロジェクトリーダーとの合同会議を開催し、各チームリーダーから進捗状況等について説明を受け、プロジェクト活動について助言を行いました。

また、第 4・5・9 回の理事会について、電子メールを用いたみなし決議としたことで、業務の効率化を行いました

回数	開催日時	理事等	備考
第1回	6月7日(木) 18:00～	8人	
第2回	7月12日(木) 18:00～	11人	
第3回	8月8日(水) 16:00～	11人	
第4回	8月31日(金)	9人	みなし決議
第5回	9月21日(金)	9人	みなし決議
第6回	10月18日(木) 18:00～	8人	
第7回	11月15日(木) 15:00～	10人	合同会議
第8回	12月12日(水) 18:00～	7人	
第9回	1月28日(月)	9人	みなし決議
第10回	2月25日(月) 15:00～	9人	
第11回	3月14日(木) 18:00～	12人	合同会議
第12回	4月11日(木) 18:00～	15人	合同会議
第13回	5月16日(木) 18:00～	12人	合同会議

### (3) 各プロジェクトチームのミーティングの開催

各チームで随時開催しました。

## 6 市政等への参画

審議会等名称	会員名
長野市地球温暖化防止活動推進センター運営委員 長野広域連合ごみ処理手数料審議会委員 豊かな環境づくり長野地域会議運営委員	金井 三平
長野市環境審議会委員	赤羽 和春
長野市健康増進・食育推進審議会委員	佐藤 敏夫
長野市廃棄物減量等推進審議会委員	西澤 和雄
長野県緑の基金理事	片桐 勝治
長野市環境子どもサミット実行委員会委員	小山 勝宏

## 7 その他

### (1) 寄附

平成31(2019)年1月25日、長野卸売市場協同組合様から本会へ寄附金の贈呈がありました。

【内容】長野卸売市場内の約80の事業所で作る同組合は、市場内で出た古紙を原料にトイレットペーパーを製造し、各事業所に販売しています。このたび、同組合からこのトイレットペーパーの売上金の一部を市内の環境保全活動に役立ててほしいと本会に寄附していただきました。

【寄附金額】59,500円

### (2) 会員

令和元(2019)年5月末現在の会員数：179(平成30(2018)年5月末：150)

### (3) ながの環境パートナーシップ会議への年間活動参画者数

平成19(2007)年度 2,495人	平成25(2013)年度 3,638人
平成20(2008)年度 3,152人	平成26(2014)年度 3,566人
平成21(2009)年度 2,448人	平成27(2015)年度 3,766人
平成22(2010)年度 2,790人	平成28(2016)年度 4,112人
平成23(2011)年度 4,116人	平成29(2017)年度 4,629人
平成24(2012)年度 4,176人	平成30(2018)年度 4,842人



ビジョン  
山にみどり・川に清流・谷に風・空の星  
自然と和して発展するまち・人のくらし  
みんなの知恵と行動でつくる環境・未来・ながの

基本方針  
環境問題に関わる人や団体を結び(つなぐ)、情報を共有する(伝える)し、共に活動(行動する)する役割を担うことにより、環境保全に向けたネットワークを築き、地球環境問題へと視野を広げながら、地域から地球規模に広がる環境保全活動を推進し、環境ビジョンの実現を目指していく。

活動方針  
①アジェンダの推進  
②協働の拡大と連携強化  
③新たな広報ツールとして活動成果報告書「手をむすんで」を刊行  
④民間団体助成金の活用を推進

実施プロジェクト等	①	生ごみ削減・再生利用プロジェクト	※会員数:18
	②	レジ袋使用削減プロジェクト	会員数: 6
	③	市民の森づくりプロジェクト	会員数:32
	④	太陽エネルギー普及促進プロジェクト	会員数:14
	⑤	聖山自然復元プロジェクト	会員数: 5
	⑥	子どもの環境学習支援プロジェクト	会員数: 5
	⑦	ながのカーボンオフセットプロジェクト	会員数: 2
	⑧	小生物の育成環境保全プロジェクト	会員数:40
	⑨	ぼんすけ育成プロジェクト	会員数: 9
	⑩	ゴマシジミ保護・育成プロジェクト	会員数: 1
	⑪	生態系豊かな、水に親しめる川づくり(水環境保全)プロジェクト	会員数:11
	⑫	田中さくら公園作り&里山づくりプロジェクト	会員数:10
	⑬	ながの環境団体大集合スペシャルプロジェクト(7~1月:8回開催)	メンバー数:11

※事業者・団体の会員数は1と数える。また、複数のプロジェクトに所属している者は両方で数えるので、全体の会員数とは一致しない。

実施期間	内 容	人数
H30.6~R1.5	生ごみ削減・再生利用プロジェクト	1,051
H30.6~R1.5	レジ袋使用削減プロジェクト	477
H30.6~R1.5	市民の森づくりプロジェクト	401
H30.6~R1.5	太陽エネルギー普及促進プロジェクト	0
H30.6~R1.5	聖山自然復元プロジェクト	10
H30.6~R1.5	子どもの環境学習支援プロジェクト	219
H30.6~R1.5	ながのカーボンオフセットプロジェクト	0
H30.6~R1.5	小生物の育成環境保全プロジェクト	531
H30.6~R1.5	ぼんすけ育成プロジェクト	336
H30.6~R1.5	ゴマシジミ保護・育成プロジェクト	248
H30.6~R1.5	生態系豊かな、水に親しめる川づくり(水環境保全)プロジェクト	0
H30.6~R1.5	田中さくら公園作り&里山づくりプロジェクト	182
H30.7~H31.1	ながの環境団体大集合スペシャルプロジェクト(7~1月:8回開催)	88
H30.6.3	身近な水環境全国一斉調査2018	5
H30.6.17	平成30年度通常総会	98
H30.6~R1.5	理事会(第1回~13回)	130
H30.7.13	豊かな環境づくり長野地域会議主催によるアレチウリ駆除活動	9
H30.7.29-30	信州環境フェア2018	320
H30.8.11	山の日ウォーキング	51
H30.8.29	県立大学の協働によるアレチウリ駆除	5
H30.9.30	ながの環境フェア2018	150
H30.10.28	第23回長野市環境こどもサミット	300
H30.11.13	公開学習会2018	81
H30.12.15	第8回ながの環境団体大集合	111
H31.1.29	地域づくり出合いのひろば	2
H31.3~4	地域まるごとキャンパス実行委員会(第1回~2回)	2
H31.3.20	「ボイ捨て、歩行喫煙等防止条例」の一斉啓発活動	33
H31.4.15	信州大学工学部 地域環境演習 I ガイダンス(学生数はプロジェクト報告に含む)	1
R1.5.23	長野エコ活動推進本部定期総会	1
一年間の活動・参加者数		4,842

成果・課題

《活動の成果》

- ・12プロジェクトとスペシャルプロジェクトを推進
- ・第8回ながの環境団体大集合を開催(「私たちの地球環境と未来—これからの活動とSDGs—」をテーマに、環境活動に取り組んでいる団体や事業者などがSDGsを理解し合える場を設けるとともに基調講演会・分科会・ポスターセッション等を実施した)
- ・活動成果報告書「手をつないで」を発行し関係団体へのPRや新規会員の勧誘時等で活用した。
- ・ホームページを改修してバナー広告の掲載を始めた。また、facebookを利用した情報発信を行った。

《今後の課題》

- ・環境保全活動の協働の推進(プロジェクトサポーター制度の推進等)
- ・会員の高齢化による活動力の低下が懸念されるため、市民・事業者・行政の協働による取組を更に推進するとともに若者や事業者を含む新規会員の勧誘を促進する。

令和元(2019)年5月末現在の会員数:179  
うち個人:148、事業者・団体:31  
(平成30(2018)年5月末現在の会員数:150)  
・ながの環境パートナーシップ会議の活動への参画者

平成19年度:	2,495人
平成20年度:	3,152人
平成21年度:	2,448人
平成22年度:	2,790人
平成23年度:	4,116人
平成24年度:	4,176人
平成25年度:	3,638人
平成26年度:	3,566人
平成27年度:	3,766人
平成28年度:	4,112人
平成29年度:	4,629人
平成30年度:	4,842人

平成 30 (2018) 年度 活動 報告 書



プロジェクト名	生ごみ削減・再生利用【リーダー：河西弘明】
---------	-----------------------

理想の街  
 ・市民一人ひとりが地球環境の悪化を懸念し、ごみの削減・再生利用につとめ、排出量は以前と比べ大幅に減っているまち  
 ・生ごみの大半がリサイクルされ有機循環システムの推進、可燃ごみが大幅に減少しているまち  
 ・地域ごとに多くの市民が生ごみの減量化・再資源化に取り組む地域循環型のまち

数値目標  
 ・可燃ごみに占める生ごみの割合を35%にする。(これまでの約40%から現在は約36%になった)  
 ・市が推奨する自家処理(水切り・堆肥化)を地域ごとに組み合わせ方法として、現在、2つの住民自治協議会との協働を維持できた。  
 ・キッズ生ごみ農園クラブの年間家族会員10家族の目標を上回り16家族が会員となり継続した。自立運営には50家族を最終目標とする。

行動計画  
 ①生ごみ削減・再生利用の啓蒙・啓発キャンペーン活動を各種展示や講習会等によって働きかける。  
 ②生ごみの自家処理を住民自治協議会に働きかけるとともに市生活環境課とみどりの市民の協力を得て進める。  
 ③「キッズ生ごみ農園クラブ」の活動をさらに充実させる。セブンイレブン記念財団の環境市民活動助成を受けて農業機器や資材を揃える。これによって生産と収入に結びつくことでメンバーの意欲と自主財源確保に繋げる。これらの行動計画は、ほぼ実現できたが「キッズ生ごみ農場」のある大生島地区の住民自治協議会等から協力を得られるよう次年度以降の計画に繋げる。


活動計画  
 ①信州環境フェア・アモーレフェスタにて展示・クイズ・生ごみで育てた野菜の即売会を実施した。また、篠ノ井軽トラ市や中央病院病院祭の朝市でも同野菜を即売し生ごみ減量呼び掛けした。これによって自主財源が確保できた。  
 ②安茂里自治協、若槻自治協の主催により「生ごみ実践減量講座・エコ料理教室」を実施した。  
 ③キッズ生ごみ農園クラブの会員を15家族に増やす。農場の運営は、セブンイレブン記念財団の環境市民活動助成(654,610円)によりトラクター・散水ポンプセット・草刈り機など農業資材が充実し能率が上がった。家族会員が生ごみを持ち寄り堆肥化し、野菜を作る食のループ活動としても喜びを得ている。具体的な生産物は、ジャガイモや約700kg、玉ねぎ約1200個、大根約700本、黒豆約30kg、黒小豆約5kg他トマト・キュウリ・ナスなど夏野菜などである。

月	日	内容	人数	月	日	内容	人数
6	1	トマト・ナス・カボチャの苗植付	6	11	3	黒豆・小松菜・大根収穫・草取り	6
	12	定例会にて打合せ	10		4	アモーレフェスタ出展・大根販売	157
	14	大豆島自治協にキッズ農園の協力依頼	2		13	定例会にて打合せ	8
	15	大豆島公民館・幼稚園に収穫祭のチラシ配布	2		22	秋の収穫祭準備収穫祭準備・ブルーベリー苗植付	7
	21	草刈り・玉ねぎ収穫準備・農場整備	6		23	秋の収穫祭	72
	23	玉ねぎと大根の収穫・会員に配布	14	12	2	黒豆の脱殻	3
	28	若槻自治協主催生ごみ実践減量講座	15		6	堆肥の切り返し	1
	30	第2回玉ねぎと大根の収穫配布	14		11	定例会にて打合せ	9
7	3	草取り・水汲み散水・パレット敷設	2		21	枯草狩り・野火・耕運作業	5
	6	大豆島保育園収穫祭チラシ配布	12		22	麦踏み、小松菜・中島菜・カブ・ホウレンソウの収穫	14
	10	定例会にて打合せ	10	1	8	定例会にて打合せ	7
	13	子ども食堂に大根寄贈・物置設置	9		30	生ごみ堆肥に草本チップを混入	4
	16	黒小豆の支柱立て	2	2	12	定例会にて打合せ	6
	20	収穫祭準備・発電機テスト	3		20	農機具の手入れと倉庫の整備	2
	21	豆畑の草刈り	2		24	農場開き、麦踏み、小松菜・中島菜収穫	9
	22	夏の収穫祭	65	3	5	生ごみ堆肥に腐菌床を混入	2
	27	信州環境フェア搬入	5		12	定例会にて打合せ	9
	28	信州環境フェア	356		24	麦踏み体験、芽かき菜収穫	10
	31	耕運作業と石灰窒素散布	5	4	5	大谷地湿原へ葎の視察	2
8	7	定例会にて打合せ	10		6	ジャガイモ・菊芋・大根・ホウレンソウ種まき	13
	17	除草・耕運作業・黒小豆収穫	5		9	定例会にて打合せ	8
	22	耕運作業・大根種まき・黒小豆収穫	3		14	キュウリ・ナス・カボチャ苗種まき	1
	24	草取り・水汲み・散水作業	3		20	農道わきのゴミ拾い、大根種まき・草取り・堆肥天地返し	10
9	4	大根と玉ねぎ種まき・黒小豆収穫	3		20	ハウス用パイプを支柱用にカット	2
	10	定例会にて打合せ・一次生成物を堆肥に投入	8		24	一次生成物を堆肥に投入、プラごみ片付け	1
	23	若槻自治協主催生ごみ堆肥化講座とお料理教室	24	5	6	夏野菜の苗仕入れ	2
	30	長野環境フェアに出展	54		11	夏野菜(トマト・ナス・キュウリなど)の植付	
10	6	ナス・トマト・黒小豆収穫	8		25	安茂里自治協「生ごみ堆肥化講座」	
	9	定例会にて打合せ	9				
	12	草刈り・灌水作業	3				
	19	大根収穫・草取り	5				
	27	大根・黒小豆収穫	6				

一年間の活動・参加者数 1051

成果  
 ・「活動の成果・課題」  
 生ごみ削減・再生利用の啓蒙キャンペーン活動は、これまでの信州環境フェア及びアモーレフェスタにて展示説明、プレゼンテーション「楽しい生ごみ教室」、クイズ等を実施した。また、住民自治協議会の協力を得て「生ごみ堆肥化講座」「エコ料理教室」を実施して、生ごみを減らし堆肥を家庭菜園等に活用する地域循環を呼び掛け6年経ち定着してきている。この成果の影には、長野産堆肥化基材「ピタビー5」を活用する人の評価(作りの育ちが良い)が徐々に増えていることや、展示・出店の際に「キッズ生ごみ農園クラブ」で生産した野菜を景品や販売で来場者に味わっていただくことで一定の評価を得ていることがあると思われる。  
 次に「キッズ生ごみ農園クラブ」の運営には、2年続けて「セブンイレブン環境市民活動助成」を受けられたので農業機器や資材を充実できたことが大きい。令和元(2019)年度はこの助成を受けていないので、家族会員は次第に増えつつある(10家族会員増)が、自主財源としての運営はまだまだ厳しいものである。また、家族会員の増加に伴い農作業に加わる若い世代が増えてきたことは成果の一つである。そこで、これまで単発のレクリエーション傷害保険に加入してきたが、新たに年間ボランティア保険に加入することにした。しかし、トラクターの操縦などを希望する者もあり、これまで自己責任でやってもらったが、ボランティア保険ではカバー出来ないものでどうするか検討中の課題がある。  
 最後に、脱プラスチック社会の要請に応じて麦ストロー製作のためライ麦を実験栽培中であるが、カット、洗浄、殺菌、包装など製品化へ超えるべきハードルがあり、そのためには予算と共に課題がある。

長野市協力課等	取組内容
生活環境課	イベントに協力

平成30(2018)年度活動報告書				12 17				
プロジェクト名		レジ袋使用削減【リーダー:渡辺 ヒデ子】						
理想の街	レジ袋の使用を減らし、買い物袋(マイバッグ)を持参する意識を定着させることにより、ごみ減量に対して市民が主体的に行動し、資源を大切にしているまち。							
数値目標	マイバッグ持参率を80%以上とする。							
行動計画	①多くの団体と連携を取りながら、レジ袋無料配布中止に向けて取り組む。 ●県・地域振興局と連携 ②レジ袋使用削減の意識啓発を進める。 ●店頭啓発の継続(啓発用グッズの確認作成、10月強化キャンペーン) ●イベントでの意識啓発 ●持参率調査 ●協力市民団体の拡大 ●地域商店会との連携 ③環境学習の練習推進 ●学校等での環境学習啓発用パンフレットの作成 ④今後のプロジェクトチームにおける活動の方向性について、検討を行う。							
活動計画	前年度の活動等から見えてきた課題を整理し、従来からの事業や新規事業に生かしていく。 ●毎月5日のキャンペーン(10月強化キャンペーン) ●持参率調査 ●県・地域振興局との連携 ●啓発パンフレットを作成し、新たな啓発のツールとして幅広い利用を模索 ●プロジェクトチームの活動内容を検討する。							
活動実績	月	日	内容	人数	月	日	内容	人数
	6	14	PTミーティング	4	7	30	信州環境フェア出展	10
	7	3	PTミーティング	5	12	15	環境団体大集合	4
	8	28	PTミーティング	3			ノーレジ袋デー・啓発キャンペーン	115
	9	11	PTミーティング	4			(10月のキャンペーン含む)	
	9	27	PTミーティング	4			市役所セブンイレブンマイバッグ	
	10	19	PTミーティング	4			持参率調査	20
	12	6	PTミーティング	4			市役所セブンイレブンマイバッグ	
	1	30	PTミーティング	5			持参啓発活動	10
	2	26	PTミーティング	5	3	14,15	マイバッグ持参率調査	18
	4	15	PTミーティング	5	8	5	エコふぁみりあ参加	117
	5	15	PTミーティング	4	3	24	エコふぁみりあ参加	136
	績	一年間の活動・参加者数						
成果	<<活動の成果・課題>> <<活動の成果>> ・マイバッグ持参率が3年連続で60%を超え(67.5%)、昨年度(60.3%)を上回った。 ・昨年に引き続き、長野市清掃センターの見学時、長野市内の小学4年生に対して啓発用パンフレットの配布を行った。 ・信州環境フェアに出展し、レジ袋利用削減の啓発活動を来場者に向けて行った。 ・小売事業者に対して、レジ袋使用削減に関するアンケートを行い、現状を把握した。 ・市役所第一庁舎内において、職員にむけてレジ袋使用削減の啓発及び、マイバッグ持参率調査を行った。 <<今後の課題>> ・3月のマイバッグ持参率調査の結果は、67.5%であるが、当チームの目標である80%を目指して、引き続き啓発が必要である。又、使い捨て容器包装プラスチックであるレジ袋の環境への影響を多くの市民に啓発することが必要である。 ・レジ袋だけでなく、使い捨てプラスチック全体の消費量を削減させるため、啓発活動等を行うことを検討していく。							
長野市協力課等			取組内容					
生活環境課			事務局として参加					
環境保全温暖化対策課			事務局として参加					

平成 30 (2018) 年度 活動 報告 書



プロジェクト名

市民の森づくり【リーダー:片桐 勝治】

理想の街	四方を山に囲まれた長野市には手入れされた里山があり、そこには多様な動植物が暮らす豊かな森がある。人々はこの里山を利用し、楽しみ、未来につなげる自然の大切さについて学ぶことができるまち							
数値目標	前年以上の市民、他団体との連携を図る。 市民の森づくりに800人以上の参加者を得る。 市民の森の候補地を1箇所以上選定する。							
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・里山に関する市民の理解を深め、多くの人に参加してもらうことを考え、森林整備、林業講座、自然観察会、山遊び、学習会、など多様性に富んだ活動を行うため、検討を重ねる。</li> <li>・里山の大切さや山の恵みを利用する楽しさを実感できる「市民の森」を市内に複数設置するための候補地を探す。地元住民との交流を図る。</li> <li>・多くの他団体や、個人、事業者との連携を図る。</li> </ul>							
活動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林整備(6~12月、4、5月)</li> <li>・趣味の林業講座(6~8月)</li> <li>・秋の里山散策(10月)</li> <li>・高校生の森林整備体験、自然観察(6月、10月)</li> <li>・里山遊び(かんじき体験)(2月)</li> <li>・きのこの駒打ち体験(4月)</li> <li>・仮称第二の市民の森候補地の実施計画立案</li> <li>・事業者、他団体との協力、連携を図る</li> </ul>							
活動実績	月	日	内容	人数	月	日	内容	人数
	6	9	森林整備作業	6	10	21	秋の里山散策	12
		17	市民の森総会	16		28	環境こどもサミット参加	44
		23	自然観察会	34		29	定例会議	4
		24	森林整備作業	5	11	10	森林整備作業	5
			定例作業日以外の整備	16		25	森林整備作業	3
	7	1	林業講座(TV取材者含む)	30		28	定例会議	4
		14	森林整備作業	5	12	5	製材機運搬	3
		26	臨時総会	18		6	市民の森会議	6
		29	市民の森会議	8	2	21	定例会議	5
	8	6	市民の森会議	8	3	3	かんじき体験会	20
		27	定例会議	5		27	定例会議	7
	9	15	安全研修	11	4	13	森林整備作業	5
			講習他	27		27	きのこの駒打ち体験会	35
		26	定例会議	4	5	10	定例会議	7
10	13	森林整備作業	6		11	森林整備作業	4	
	19	北部高校森林整備体験	33		26	森林整備作業	5	
一年間の活動・参加者数							401	
成果	<p>《活動の成果》</p> <p>本年度は里山散策、高校生の森林整備体験、かんじき体験会、きのこの駒打ち体験会など一般参加者を募った催しはほぼ予定通り実施する事が出来た。第二の市民の森選定作業は進まなかったが、「あさかわの里山と森を守る会」との合同作業など地元の方々とのつながりを進める活動もできた。しかし、本年度は作業中断の期間があり、活動参加者は年間400名程度となった。</p> <p>《今後の課題》</p> <p>活動参加者の固定化傾向のある中、更なる活動の広がりや、活動の多様性を考えると会員数の増加は必要である。他のチームなどとも協力し、体験会なども活用の上、活動の輪を広げて行きたい。安全作業に徹して、無事故・無災害を旨として作業を進める。</p>							
	長野市協力課等	取組内容						
	森林農地整備課	基礎から学ぶ趣味の林業講座						

平成30(2018)年度活動報告書



プロジェクト名

聖山自然復元【リーダー:遠藤 和夫】

理想の街

平成21年度末をもって閉鎖となった大岡聖山スキー場の跡地及び聖山周囲の自然環境を、地域の環境に適合した植生に復元し、伝統的土地利用を考慮しながらCO2吸収源の拡大と、ボランティアによるネットワークを構築するまち。

数値目標

行動計画

1. 信州大学の学生に周知して活動への参加を促す。
2. 大岡小学校のみどりの少年団に呼びかけて、世代間交流と協働活動の場をつくる。
3. 大岡地区住民の集まる場で活動の紹介をして、地区住民の意識の向上を図る。
4. 環境団体の情報交換の場を活かして、市民や県民の活動への理解を深める。
5. 活動の輪を広げるため、リーフレット等広報手段を活用して市民や県民に配布する。
6. 大岡を訪れる児童・生徒の団体に呼びかけて、植樹や草原の管理に参加してもらう。

活動計画

- ・現況植生把握のための跡地の植生調査及び出現種調査
- ・山の日イベントへの協力

活動実績

月	日	内容	人数	月	日	内容	人数
8	9	山の日イベント講師等との打ち合わせ	8				
8	11	山の日イベント	1				
2	7	聖山高原県立公園地域会議	1				

一年間の活動・参加者数 10

成果・課題

《活動の成果・課題》

- 成果  
プロジェクトとしての活動はあまりできなかったが、山の日イベントに協力し、多くの子どもたちに活動内容を説明することができた。  
また、長野県自然保護課が開催した「第1回聖山高原県立公園地域会議」に出席し、聖山高原県立公園の公園計画変更について検討をした。
- 課題  
プロジェクトの活動継続について調整が必要

長野市協力課等	取組内容
環境保全温暖化対策課	山の日イベント「大岡聖山 360度パノラマを楽しもう」への協力



平成30(2018)年度活動報告書



プロジェクト名

子どもの環境学習支援【リーダー:渡辺 隆一】

理想の  
子どもエコクラブで主に小学生が親と一緒に活動し、中高生になったら「ユースクラブ」で自主的に環境活動をおこない、環境団体との連携も図られているまち

数値目標  
第7回国際ユース環境会議の参加者50名

行動計画  
第7回国際ユース環境会議を開催し、ユースと環境団体との連携を図る

活動計画  
第7回国際ユース環境会議開催のための活動  
・開催要項の作成、後援依頼、  
・現地下見、  
・チラシ作成、配布  
・報告書作成、送付など

活 動 実 績	月   日   内容   人数				月   日   内容   人数			
		4	16	例会	5	11	5	例会
	5	7	例会	5	12	15	大集合展示	4
		14	チラシ配布	4	1	29	例会	5
		21	チラシ配布(市内高校)	2	3	30	ユース懇談会	9
		21	チラシ仕分け(中学用)	6	4	10	例会(今年度計画)	3
	6	4	最終例会	5		21	ユースリーチで説明会	2
		13	工学部にて打ち合わせ	4		30	例会	3
		20	資料印刷	2				
		22	国際ユース環境会議開始	46				
		23	国際ユース環境会議	46				
		24	国際ユース環境会議	46				
	7	3	反省会	5				
		24	例会	5				
	9	18	報告書印刷	2				
		22	工学部発表会	5				

一年間の活動・参加者数

219

成果  
・課題  
《活動の成果・課題》  
1 成果  
ア 平成30(2018)年6月に2泊3日の日程で、国際ユース環境会議を信州大学教育学部しなのき会館にて開催した。26名のユースの参加を得、「2030年の長野の環境と生活」をテーマに考え、英語で発表し、討論した。韓国、中国、アメリカ、カナダ、ブラジルの5か国の外国籍ユース等と英語によりコミュニケーションを図ることで、ユースの視野の拡大を図れた。  
イ 都市農研究会や環境保全協会、NPOみどりの市民などいくつかの環境団体との連携および協力関係を構築することができた。参加者間のLINEやfacebook及びメーリングリストを用いたコミュニケーションを構築し、次回の国際ユース環境会議の企画への参画の端緒を築くことができた。  
ウ 実施成果を、平成30(2018)年度のP会議「環境団体大集合」で発表し、広報できた。  
2 課題: 国際ユース環境会議(年次イベント)の開催、メーリングリスト等枠組みは設定できたが、ユースの自主的な活動はまだ十分ではない。支援メンバー不足など長期的な支援の仕組みを確保したい。

長野市協力課等

取組内容

平成 30 (2018) 年度 活動 報告 書



プロジェクト名

小生物の育成環境保全【リーダー:杉山 茂樹】

理想の街	身近な自然環境を守り後世に残すため、里山の小生物(オオムラサキ・カブトムシ・クワガタ)などの生育環境を再生し松代に自生するエドヒガン・野生モモが咲く豊かな自然環境の保全を目指す。オオムラサキ含めジャコウアゲハ・アゲハチョウ・キアゲハ・アサギマダラなどが自然に舞う環境の構築に努め啓発活動を進める。
数値目標	松代町内の小学校の総合学習・コミュニティスクールの中で学習会・観察会を随時開催する。また、市民対象の観察会を実施し、環境保全の啓発活動を行なう。昨年同様に年間述べ参加人員500名を目標に進める。エドヒガンを松代全区公共施設を初めとし各学校の枯死寸前のソメイシノにかえ植栽して行く。
行動計画	オオムラサキ観察会を身近で随時できるよう飼育舎を設置し子供たちに本物を見せる環境作りをする。より多くの子どもたちにオオムラサキの観察をしてもらうために、松代町内の小学校に観察会への参加を呼び掛ける。オオムラサキだけでなくジャコウアゲハ・キアゲハ・アゲハチョウ・アサギマダラの食草をさらに補植し安定的な発生を試みる。松代千本桜大作戦で行なっているエドヒガン苗の頒布を今年も実施する。
活動計画	オオムラサキ繁殖地内に設置した飼育舎中心に安定的な発生を試みて、自然観察会の内容充実を図る。 竹の出入口に看板を新設し、オオムラサキ保護区域として認知度を向上させる。 子供たちが安心・安全に入れるような環境整備を押し進める。

活 動 実 績	月	日	内容	人数	月	日	内容	人数
		6	1	東条小学校観察会打合せ	2	10	23	除幕式打合せ
	6	9	竹ノ入り草刈	10	10	24	竹の入草刈り	6
	6	15	竹ノ入り草刈整備	7	10	26	茅野市オオムラサキ視察	12
	6	22	オオムラサキ観察会打合せ	5	10	31	除幕式準備	10
	6	29	西条/清野小学校観察会	20	11	1	オオムラサキ看板除幕式	137
	6	29	P会議総会まち歩きセンター	17	11	30	寺尾小学校 めぐみの会出席	3
	7	4	東条小学校観察会	120	12	15	ながの環境団体大集合参加	8
	7	8	市民対象のオオムラサキ・メダカ観察会	30	12	20	オオムラサキ生息地整備作業	5
	7	9	豊栄/寺尾小学校観察会	32	12	20	フジバカマ刈り取り作業	5
	7	18	竹の入 フジバカマ除草作業	8	2	21	エドヒガン苗 寄贈(石巻)	6
	9	21	P会議打合せ	5	3	10	オオムラサキ幼虫観察会	20
	10	4	竹の入草刈り	7	3	10	エドヒガン根回り整備作業	8
	10	12	エドヒガン苗植え替え	8	3	1	エドヒガン苗 寄贈(阿弥陀寺)	5
	10	18	オオムラサキ看板除幕式打合せ	7	4	4	エドヒガン苗 寄贈(浅川自治協)	7
	10	22	除幕式打合せ	8	4	27	エドヒガン苗 寄贈(小市自治協)	5
一年間の活動・参加者数								531

成果・課題  
 <<活動の成果・課題>>  
 オオムラサキ観察会で観察するオオムラサキを確保するため、本年より幼虫の飼育を行ないました。幼虫30頭程度飼育し、5頭の成虫が羽化しました。飼育舎の中で産卵し、孵化した幼虫の観察もできました。しかし縄張り意識の強いオオムラサキには現在の飼育舎は狭いため、大きな飼育舎に作り替える予定です。小学校の観察会は昨年の2校から5校に増え、飼育した蛹や成虫を観察してもらうことができました。今後更に観察に来る学校が増える見込みであるため、オオムラサキの飼育を推進していきます。竹の入の入口の看板を加藤市長に書いて頂き、11月に市長をお招きして除幕式を行いました。引き続きオオムラサキ保護区域として、より多くの方が自然観察ができるように整備を進めていきたいと思ひます。

長野市協力課等	取組内容
環境保全温暖化対策課	オオムラサキ看板の設置・除幕式の実施

平成 30 (2018) 年度 活動 報告 書



プロジェクト名

ぼんすけ育成【リーダー:小林 和子】

**理想の街**  
里山に生息する絶滅危惧種の多くは、市街地の開発された平野部に生息していた身近な生き物であった。つまり、開発によって生息場所を追われ、里山にかろうじて生き残っているといえる。過疎の進行した里山で絶滅危惧種の保全の問題を解決することは難しい。ぼんすけ(シナイモツゴ)をシンボルとして、里山の役割と現状を市街地住民にも知ってもらい、里山と市街地の市民が保全目標を共有できる街にしたい。

**数値目標**  
1 シナイモツゴの生息場所であるため池の環境保全活動を実施する。  
2 地元の児童生徒や市民を対象としたシナイモツゴ観察会を開催し、ため池に生息する生き物を観察する。また、会員のスキル向上を目指すため勉強会(講演会)を開く。  
3 ぼんすけのネーミングを活用した信里地域の農産物をブランド化し販売する。  
(目標数値:観察会等の参加者数160名 会員数40名)

**行動計画**  
1 シナイモツゴの生息場所であるため池の環境保全活動を実施する。  
2 地元の児童生徒や市民を対象としたシナイモツゴ観察会(秋と春)を開催し、ため池に生息する生き物を観察する。また、会員のスキル向上を目指すため勉強会を開く。  
3 プロジェクトチーム自ら稲作とリンゴの栽培を開始する。  
4 ぼんすけのネーミングを活用した信里地域の農産物をブランド化し販売する(ぼんすけ米・ぼんすけ林檎)。  
5 活動拠点場所であるぼんすけ小屋を設置する。

**活動計画**  
・生息地の環境保全活動  
・活動拠点箇所を設置する。  
・春、秋の自然観察会を開催  
・所属会員の自己研鑽のため、視察研修及び講演会を開催する。  
・稲作と林檎の栽培を実施することで、ぼんすけの保護＝里山の保全(荒廃農地の再生)を図る。また、収穫されたお米と林檎にぼんすけのネーミングを行い販売する。  
・毎月定例会を開催(毎月第3水曜日13:30～信里合同庁舎、会の運営・企画立案・ため池調査報告・情報交換等)

活 動 実 績	月	日	内容	人数	月	日	内容	人数
		5	18	ぼんすけ田んぼ草刈り・定例会	4	10/13～14	茶臼山動物園祭り	2
	5	29	ぼんすけ田んぼ田植え	20	10	17	定例会	10
	6	20	定例会	11	10	28	環境こどもサミット	10
	7	16	ぼんすけ観察会・講演会	50	11/7～8	ため池かい掘り	10	
	7	18	ぼんすけ田んぼ草刈り・定例会	9	11	8	定例会	13
	7	29	環境フェア	20	11	13	P会議公開学習会	2
	8	5	ため池調査	3	11	30	ぼんすけリンゴ収穫	20
	8	6	ため池調査	2	11	30	研究報告	1
	8/20～21		研修旅行	16	12	15	ながの環境大集合	15
	8	22	定例会	17	12	19	定例会	10
	9	5	ぼんすけ田んぼ草刈り・定例会	8	4	17	定期総会	20
	9	18	ぼんすけ田んぼ稲刈り	15				
	10	2	ぼんすけ米脱穀	15				
	10	12	大トロ池かい掘り	33				

一年間の活動・参加者数 336

**成果・課題**  
 <<活動の成果>>  
 近年、少子高齢化や農業離れによって、ため池の荒廃が進み、ぼんすけ達の住処がどんどん減ってきている状況の中、ぼんすけ育成PTでは、自ら稲作と林檎栽培を実施し、「ぼんすけブランド」として販売した。また、他団体等との協働によるため池の保全活動を行うなどぼんすけを含む里山の保全活動が展開できた。  
 <<今後の課題>>  
 来期も同事業を継続し、いい自然を守る～シナイモツゴも人もうれしい～そんな共生と呼ばれるような環境保全を目指していきます。

長野市協力課等	取組内容
教育委員会総務課	信里小大トロ池かい掘り
環境保全温暖化対策課	信里小大トロ池かい掘り

平成30(2018)年度活動報告書



プロジェクト名

ゴマシジミ保護・育成【浅川地区住民自治協議会】

理想の街 「ふるさと創生」活動の一環として地区内住民の意識の高揚とボランティア参加の醸成を図り浅川の特徴である中山間地と平野部の融合を徐々に深め、また子ども達からお年寄りまでの交流を図り次世代への財産として繋がれればと考えている。まちづくり計画に位置している「ゴマシジミの保護・育成」をどうして里山の整備、自然環境の保全の大切さを学んでいければと継続的な活動を行う。

数値目標 1)小・中学生を含め地元愛好家・ボランティア組織の参加を仰ぎ年間延べ200名位を目安に活動を行う。  
2)生息地の植栽(ワレモコウ)を延100名位で行う。  
3)生息地のパトロールを7月25日から8月末まで巡回パトロールを行う。(延80名)

行動計画 ・他動植物との関連  
・シワクシケアリの発見  
・ワレモコウの発芽と植栽  
・各関係機関と協力し共生昆虫の調査を行う

活動計画 ・ワレモコウの栽培(現地採取の種をまき栽培)4月中旬  
・生息地の草刈り間伐(年間4回)  
・生息地のパトロール(ローテーションによる)「7月末～9月中旬」

活 動 実 績	月	日	内容	人数	月	日	内容	人数
		6	10	草刈り・間伐	15			
	6	24	草刈り・間伐	12				
	7	8	防犯カメラ設置	5				
	7	29	監視パトロール開始	80				
	9	27	浅川小学校勉強会	80				
	10	11	北部中学校校外学習	25				
	10	28	PT子供サミット参加	2				
	11	4	紙芝居上演(ゆうわ祭・文化祭等)	6				
	11	25	ワレモコウ種子採取	5				
	2	18	チーム会議	8				
	3	11	年間予定会議	7				
	4	28	ワレモコウ発芽の準備(種まき)	3				
一年間の活動・参加者数								248

成果・課題 <<活動の成果・課題>>  
前年より生息数が増加し(関係者調査により)取り敢えず現状活動をつづけ生息環境の観察とゴマシジミの生態系の研究を更に取り組み将来への布石としたい。また地元の資産として子供から大人まで感心をもってもらい継続性のある活動を目指したい。

長野市協力課等	取組内容

平成 30 (2018) 年度 活動 報告 書



プロジェクト名

田中桜公園作り&里山づくり【リーダー:上條 補喜】

理想の街

若槻地区田中の桜公園作りを推進力に里山を里山らしく利用、保全を行う活動を展開することで、自然災害に強く、後継者も育ち定着する持続可能な地域作り・協力し支え合あう地域・まち

数値目標

100名以上 桜祭りに『看板披露』を目標に、旧北国街道沿いの桜公園入り口に看板を立てる。3年目を迎えて開花する桜も多くなるので、公園の保安全管理をプロジェクトでしっかり行いながらも、参加者と桜との関係を深めていく。

行動計画

桜公園看板のデザイン募集を参加者に。看板の材質・設計を進める。(10月目処) 1月桜公園祭り実行委員会の結成。2月、看板作成最終案の検討。3月の祭り前までに作成

活動計画

案の募集 設計 検討 作成を一貫して行う。

活動実績

月	日	内容	人数	月	日	内容	人数
6	18	桜公園手入れ作業	5				
7	23	桜公園手入れ草刈り	2				
8	20	桜公園看板作成分担会議	5				
10	22	3月予定桜公園祭りの概要検討	5				
11	12	桜公園祭り際案検討	5				
12	19	看板作成イメージ協議	4				
1	14	看板作成手順検討	5				
2	11	桜公園祭り実行委員会	12				
2	25	桜公園祭り案内ちらし配布	2				
3	4	実行委員会 役割分担	12				
3	15	現地検討会・看板立て作業①	15				
3	20	祭り準備作業・看板立て作業②	20				
3	21	祭り開催・看板お披露目	48				
4	21	田中桜公園 お花見&お世話の会	42				

一年間の活動・参加者数

182

成果課題

本年度、予算を戴き作成計画を立てた「田中桜公園」看板を手作りで作り上げたこと。看板のお披露目日「田中桜公園祭り」の開始直前まで小雨だったが、開会セレモニーが始まり、看板のお披露目時には、雨が上がり、祭りも行うことが出来た。雨の予報のため、参加者が十数名かと思われたが、50名弱の参加者。イギリスから来たお孫さん(イギリス人)を連れて参加者もあり、おお！国際的と喜び合った。で、活気あるイベントとなった。長野情報、長野市民新聞の取材があり、記事となった。4月21日花見会と手入れの会をかねて行う。40名を超える参加。当日曇りのため、太陽プロジェクトの太陽熱クッカーは活躍できなかったが、豚汁を食べ、ポツポツ咲き始めた桜の木とその周辺の手入れをし、来年度の期待を膨らませた。日本農業新聞社の取材があった。  
課題としては、より参加者が年間関わっていくきっかけを、プロジェクトとしてどう作っていくかが、来年度の課題となる。又、参加者に、環境パートナーシップ会員になってもらうよう、働きかけを強めたい。

長野市協力課等

取組内容

平成30(2018)年度 ながの環境パートナーシップ会議 収支決算書

収入合計 1,623,169 円

支出合計 1,284,963 円

差引額 338,206 円

収 入

単位:円

内 容	30年度予算額	流 用 額	予算現額	収入済額	収入済額-予算現額	内 訳
I 負担金・会費	1,075,000		1,075,000	1,080,500	5,500	
1 負担金・会費	1,075,000		1,075,000	1,080,500	5,500	市負担金100万円 会員会費500円×161(過年度分含む)
II 事業収入等	270,581		270,581	333,250	62,669	
1 事業収入	210,000		210,000	273,745	63,745	緑の募金公募事業交付金、豊かな環境づくり地域活動支援事業交付金、バナー広告料等
2 雑収入	60,581		60,581	59,505	△ 1,076	寄附金・預金利息
III 繰越金	209,419		209,419	209,419	0	
1 繰越金	209,419		209,419	209,419	0	前年度繰越金
合 計	1,555,000	0	1,555,000	1,623,169	68,169	

支 出

単位:円

内 容	30年度予算額	流 用 額	予算現額	支出済額	予算現額-支出済額	内 訳
I 活動費	160,000	0	160,000	118,616	41,384	
1 自主事業活動費	110,000	-4,000	106,000	64,850	41,150	ながの環境団体大集合、学習会
2 共催・参加事業活動費	50,000	4,000	54,000	53,766	234	信州環境フェア、山の日ウォーキングの関連経費、ライトダウンキャンペーン負担金等
II プロジェクト活動費	977,000	0	977,000	830,738	146,262	
1 生ごみ削減・再生利用	229,000	0	229,000	229,000	0	キッズ農園運営費、啓発活動費等
2 レジ袋使用削減	113,000	0	113,000	110,786	2,214	啓発用パンフレット印刷代、啓発用ポケットティッシュ購入費等
3 市民の森づくり	272,000	0	272,000	231,572	40,428	林業講座・各種体験会の関連経費、資材費等
4 太陽エネルギー普及促進	26,000	0	26,000	0	26,000	
5 聖山自然復元	0	0	0	0	0	
6 子どもの環境学習支援	40,000	0	40,000	40,000	0	国際ユース環境会議チラシ印刷代
7 ながのカーボンオフセット	0	0	0	0	0	
8 小生物の育成環境保全	167,000	0	167,000	167,000	0	繁殖地保全活動費、観察会関連経費、エドヒガン育苗費等
9 生態系豊かな、水に親しめる川づくり	0	0	0	0	0	
10 ぼんすけ育成	40,000	0	40,000	0	40,000	
11 ゴマシジミ保護・育成	40,000	0	40,000	24,640	15,360	ゴマシジミ生息地保全活動費等
12 田中さくら公園作り&里山づくり(新規プロジェクト)	50,000	0	50,000	27,740	22,260	桜公園の案内看板設置費
III 保険料	53,000	6,000	59,000	58,450	550	
1 保険料	53,000	6,000	59,000	58,450	550	ボランティア保険料
IV 広報費	282,000	6,000	276,000	242,402	33,598	
1 啓発・報告書等費	73,000	-6,000	67,000	57,640	9,360	活動成果報告書送付料、市民新聞広告料等
2 ホームページ維持費	209,000	0	209,000	184,762	24,238	HP改修委託料、レンタルサーバー利用料、ホームページドメイン使用料
V 事務局費	52,000	0	52,000	34,757	17,243	
1 事務局運営費	52,000	0	52,000	34,757	17,243	事務消耗品代、振込手数料、郵送料等
VI 予備費	31,000	0	31,000	0	31,000	
1 予備費	31,000	0	31,000	0	31,000	
合 計	1,555,000	0	1,555,000	1,284,963	270,037	

# 監査報告書

令和元年6月4日

ながの環境パートナーシップ会議

代表理事 金井 三平 様

ながの環境パートナーシップ会議

監事 小山 勝宏



監事 小林 清一



私たちは、平成30年6月1日から令和元年5月31日までの平成30年度における会計及び業務の監査を行い、次のとおり報告する。

## 1 監査方法の概要

- (1) 会計監査については、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて収支決算書及びその附属明細書並びに財産目録の正確性を検討した。
- (2) 業務監査については、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討した。

## 2 監査意見

- (1) 収支計算書及びその附属明細書は、平成30年度の収支状況を正しく示しているものと認める。
- (2) 財産目録の内容は真実であると認める。
- (3) 事業報告書及びその附属明細書の内容は真実であると認める。
- (4) 理事の業務執行に関する不正の行為又は法令もしくは会則に違反する重大な事項はないと認める。

以上

## 令和元(2019)年度運営方針(案)

ながの環境パートナーシップ会議 代表理事 金井 三平

ながの環境パートナーシップ会議(以下「P会議」という)は、「アジェンダ21ながの - 環境行動計画 - 2018」(以下「アジェンダ21ながの」という)に掲げる長野市の環境ビジョン『山にみどり・川に清流・谷に風・空に星 自然と和して発展するまち・人のくらし みんなの知恵と行動でつくる環境・未来・ながの』の実現に向けて行動します。

平成30(2018)年度は、世界がよりよい未来を迎えるために果たす目標として、国連で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」(以下「SDGs」という)※の達成を地域からパートナーシップで実現するため、平成30(2018)年に見直しされた「アジェンダ21ながの」に盛り込むとともに、市民、事業者を交えた学習会等を開催し、SDGs達成に向けた第一歩を踏み出しました。

令和元(2019)年度は、更に理解を深めるとともに、P会議及び各プロジェクトチームがSDGs達成への貢献を意識しながら環境活動を推進していきます。

また、プロジェクトサポーター制度を推進するとともに、活動成果報告書やホームページ、SNSなどの広報ツールを活用し、事業者を含む新規会員を確保することで、P会議の活性化を更に進めていきます。

「つなぐ・伝える・行動する」活動は、市民・事業者・行政との協働を拡大させ、「持続可能なP会議」とするために継続して取り組みます。

具体的な行動として

### 1 「アジェンダ21ながの」を推進します

「アジェンダ21ながの」に基づき、長野市域で環境問題に取り組む市民・事業者・団体・行政との更なる協働による環境活動を推進します。

令和元(2019)年度は、P会議と各プロジェクトの連携強化による活動の充実(行動する)に併せ、その活動を広く発信(伝える)し、次世代につながる(つなぐ)成果の見える行動により、環境ビジョンの実現を目指します。

#### (1) P会議とプロジェクトチームの連携強化と環境活動の充実を図ります。(行動する)

「アジェンダ21ながの」の趣旨に沿った活動に取り組む外部団体・事業者との共催や参加などを通じ、協働の拡大を図ります。

##### ① 主催事業の開催

令和元(2019)年度は、昨年度に引き続き学習会を開催するほか「SDGs」を



テーマにした、ながの環境団体大集合では若者が参画するスペシャルプロジェクトチームを早期に組織し、団体・事業者・学校やプロジェクトチームなどの環境活動を「つなぐ・伝える・行動する」場として、各団体の活動の相互理解が推進され、更には、新規会員の入会につながるよう、充実した主催事業を展開します。

#### ② 他団体との共催・参加・支援

各団体との共催や環境活動へ参加及び支援を通じて、若い世代や市民・事業者などにP会議の活動を広く発信し、協働による活動の参加を呼び掛けます。

(例) 信州環境フェア、長野市環境こどもサミット、ライトダウンキャンペーン、アレチウリ駆除作業、ごみひろい運動、山の日ウォーキング、信州大学地域環境演習、地域づくり出合いのひろば、地域まるごとキャンパスなど

#### ③ 理事会とプロジェクトチームの連携強化

理事会とプロジェクトチームの連携を強化し、一体となって環境保全活動を進めていくため、合同会議を適宜開催します。理事会がプロジェクトチームの活動を把握し、各プロジェクトの連携等助言及び支援することでプロジェクトチームの活動の充実を図ります。

#### ④ 「脱 使い捨てプラスチック」を目指すための調査研究

プラスチックゴミによる海洋汚染の懸念から使い捨てプラスチック製品の使用削減が世界的に進んでいることを受け、長野市域におけるリユース食器の導入・普及促進やライ麦によるストローの製造・普及促進などについて調査研究を関係機関とともに開始します。

### (2) ながの環境パートナーシップ会議の活動を広く発信します（伝える）

P会議及びプロジェクトチームの活動状況と成果を活動成果報告書「手をむすんで」にまとめ、P会議の活動をより積極的にアピールします。また、ホームページなどに加えて、SNS（フェイスブック）を活用し、市民・事業者・団体などに広く情報発信を行ない、環境意識の啓発に努めるとともに新規会員の入会につなげます。

### (3) 次世代につながり成果の見える活動を行います（つなぐ）

目標である長野市の環境ビジョンの実現に向けた活動を強化するため、プロジェクトサポーター制度を更に推進し、団体や事業者との協働の拡大を図るとともに、世代をつないだ活動基盤を構築するため、特に次世代の若者との協働による活動を進めます。

## 2 持続可能な環境パートナーシップ会議を目指します

P会議の活動が今後も持続するために、次の項目を実施します。

### (1) プロジェクトチームを充実・拡大します（行動する）

自由な発想で楽しみながら取り組める環境活動の提案を積極的に受け入れ、P会議の新規プロジェクトとして立ち上げていくなど組織の拡充を図ります。

### (2) 仲間づくりの推進と会員の増員を図ります（行動する）

充実した環境活動を行っていくためには、市民・事業者・専門家・若者など、多様な知見・能力を有している方々の集積が必要です。会員・プロジェクトチーム・理事会が協力し、また、それぞれの立場で仲間づくりを進めるとともに、会員の増員を図ります。

### (3) 新規会員等を対象にした研修会を開催します（行動する）

P会議の活動をより理解していただくとともに、協働による事業展開を推進していくため、引き続き新規会員や事業者を対象にした研修会を開催します。

### (4) 充実した活動を実行するために活動資金を確保します（行動する）

市負担金の増額をお願いするとともに、各プロジェクトチームでの環境活動支援団体の助成金、企業等からの寄付金・協賛金を積極的に活用します。

## ※【 参 考 】

### SDGsとは・・・

2015年(平成27年)9月、国連において、新たなアジェンダとして「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が全会一致で採択されました。これは、人類の発展や地球の繁栄のため2030年までに達成すべき行動計画として、宣言と目標を掲げたものです。

この目標が「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals 略してSDGs(エスディーゼーズ))」であり、これまでのアジェンダ21やミレニアム開発目標(MDGs)などの理念と成果を土台に、豊かさを追求しながら地球を守ることを呼びかける17の目標と169の行動計画で構成され、「誰一人取り残さない」という理念のもと、環境問題と経済発展を両軸に、先進国、発展途上国を含めた全ての国々に持続可能な世界に向けての変革を求めています。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



◎令和元(2019)年度活動目標・活動計画・予算書(案)

		ながの環境パートナーシップ会議(事務局)					
理想の街 (目指す姿)	山にみどり・川に清流・谷に風・空に星 自然と和して発展するまち・人のくらし みんなの知恵と行動でつくる環境・未来・ながの						
R1	目標・数値目標 ※( )内は環境基本計画の目標数値	行動計画					
	地域から地球に広がる環境保全活動を推進することにより、良好な自然環境と生活環境を将来の世代に引き継ぐ／ながの環境パートナーシップ会議への参加者数 5,000人(4,500人)	・アジェンダの進捗管理を通じ、環境保全活動を推進していく。 ・ながの環境パートナーシップ会議と各プロジェクトの連携強化により、「つなぐ」「伝える」「行動する」活動を充実させる。					
R2	目標・数値目標 ※( )内は環境基本計画の目標数値	行動計画					
	地域から地球に広がる環境保全活動を推進することにより、良好な自然環境と生活環境を将来の世代に引き継ぐ／ながの環境パートナーシップ会議への参加者数 5,200人(4,600人)	・アジェンダの進捗管理を通じ、環境保全活動を推進していく。 ・ながの環境パートナーシップ会議と各プロジェクトの連携強化により、「つなぐ」「伝える」「行動する」活動を充実させる。					
R3	目標・数値目標 ※( )内は環境基本計画の目標数値	行動計画					
	地域から地球に広がる環境保全活動を推進することにより、良好な自然環境と生活環境を将来の世代に引き継ぐ／ながの環境パートナーシップ会議への参加者数 5,400人(4,700人)	・アジェンダの進捗管理を通じ、環境保全活動を推進していく。 ・ながの環境パートナーシップ会議と各プロジェクトの連携強化により、「つなぐ」「伝える」「行動する」活動を充実させる。					
数値目標 (長期)	環境保全活動参加者数:4,700人(第2次長野市環境基本計画 後期計画R3年度目標値)	令和元(2019)年度目標活動参加人数					
		5,000人					
(支出の部)							
	区 分	実施予定	予算額	内 訳	金額:円		
本年度活動計画	A 活動費	12月	118,000	1. 自主事業活動費	60,000		
		未定		ながの環境団体大集合		10,000	
				学習会(講師謝金等)		50,000	
		7月		2. 共催・参加事業活動費		58,000	
		8月		信州環境フェア出展			20,000
		7.12月		山の日ウォーキング			15,000
	1月	ライトダウンキャンペーン参加負担金	20,000				
	7.12月	長野エコ活動推進本部年会費	3,000				
	B 保険料	通年	60,000	1. ボランティア保険(年@350×170人)	59,500	59,500	
	C 広報費	通年	383,000	1. 啓発・報告書等費	305,000		
				活動成果報告書印刷費		270,000	
				広告料(新聞)		35,000	
				2. ホームページ維持費	77,800		
	ホームページメンテナンス料	38,800					
	レンタルサーバー利用料・ドメイン利用料	9,000					
facebook管理費	30,000						
D 事務局費	通年	75,000	1. 事務局運営費	74,820			
	事務消耗品費・振込手数料	40,000					
	活動成果報告書送料(@250×50人)	12,500					
			総会通知(はがき代@124×180人)	22,320			
E 予備費		23,000	1. 予備費	23,000	23,000		
支 出 予 算 額 合 計			659,000	支 出 積 算 額 合 計	658,120		
(収入の部)							
	区 分	実施予定	予算額	内 訳	金額:円		
本年度活動計画	A 負担金・会費	通年	1,090,000	会費(@500×180人)	90,000		
				市負担金 1,000,000円	1,000,000		
	B 事業収入等	通年	440,000	1. 事業収入	380,000		
				ホームページバナー(@15,000×12社)		180,000	
				活動成果報告書印刷費助成		200,000	
				2. その他収入	59,505		
寄附金	59,500						
	利息等	5					
C 繰越金		338,206	1. 前年度繰越金	338,206	338,206		
収 入 予 算 額 合 計					1,868,206		

◎令和元(2019)年度活動目標・活動計画・予算書

プロジェクト名	生ごみ削減・再生利用プロジェクト				
理想の街 (目指す姿)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民一人ひとりが地球環境の悪化を懸念し、ごみの削減・再生利用につとめ、排出量は以前と比べ大幅に減っているまち</li> <li>・生ごみの大半がリサイクルされ有機循環システムの推進、可燃ごみが大幅に減少しているまち</li> <li>・地域ごとに多くの市民が生ごみの減量化・再資源化に取り組む地域循環型のまち</li> </ul>				
R1	目標・数値目標		行動計画		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信州環境フェアやアモーレフェスタなどに出席し生ごみ減量活動の周知徹底をする。</li> <li>・生ごみ堆肥の作製量をさらに増やし、キッズ生ごみ農園に活かすと共に生ごみや一時生成物を栽培した野菜等と交換市を行う。また、栽培品種を増やすことで会員増を目指す、と共に朝市などの自主財源確保で運営の充実を図る。</li> <li>・ライ麦の試験栽培により麦ストローを生産し、脱プラスチックに活かす。</li> <li>・数値目標は、可燃ごみ総量に対する生ごみの割合を36%に削減する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生ごみ堆肥化による生ごみ減量の啓もう、展示説明、講座開催等によるキャンペーン活動</li> <li>・キッズ生ごみ農園クラブの会員募集、生ごみと野菜の交換市を周知発展させる活動</li> <li>・キッズ生ごみ農園クラブ農場の継続資材確保と維持管理の活動</li> <li>・子供のための一坪農園を食農教育として展開する活動</li> </ul>		
R2	目標・数値目標		行動計画		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生ごみの有効な資源化と処理方法を策定し実践する。</li> <li>・キッズ生ごみ農園クラブの独立を目指し、野菜等の販路拡大により自主財源確保を充実させる。このため、スタッフ増員が喫緊の課題でもある。</li> <li>・数値目標は、可燃ごみ総量に対する生ごみの割合を35.5%に削減する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生ごみ堆肥化による生ごみ減量の啓もう展示活動</li> <li>・キッズ生ごみ農園クラブの会員募集、生ごみと野菜の交換市を周知発展させる活動</li> <li>・生ごみ農園クラブ農場の維持管理と自主独立活動</li> <li>・子供のための一坪農園を食農教育としてのテキスト作りを完成させる活動</li> </ul>		
数値目標 (長期)	可燃ゴミにに対する生ごみの割合を35%以下(食品ロス含まず)にする。			令和元(2019)年度目標活動参加人数	
				1100人以上	
	区分	予算(支出の部)	実施予定	説明	金額
本年度活動計画	A	他団体等への働きかけ ・各地区自治協等の地縁団体を通じて地域住民への啓蒙活動 ・生ごみ堆肥化講座と生ごみ堆肥で育てた野菜のお料理教室(エコ料理)(春・秋の年2回×2自治協)	5月～9月	住民自治協等向けのパンフ	0
				見本の作成と教材費(基材等)	10,000
	B	市民への啓蒙 ・展示、講習会(信州環境フェア・アモーレフェスタなど)で配布のチラシ	6月～10月	収穫祭チラシ1500部	20,000
				キッズ生ごみ農園クラブ会員募集チラシ3000部	50,000
				交換市・一坪農園のチラシ500部作成費	10,000
	C	キッズ生ごみ農園クラブ ・家族会員等の一次生成物及び生ごみの受入れ ・生ごみ堆肥を製造して花や農作物を作る活動・麦ストローの作製 ・会員25家族の確保を目指し、設備の充実 ・春・夏・秋に収穫祭の実施 ・キッズ生ごみ農園クラブ学習用テキストの作成 ・麦ストロー作製のための機材	通年	キッズ生ごみ農場(地代)	30,000
				燃料代(ガソリン・混合油代)	40,000
				生ごみ堆肥の基材・種苗代	27,600
				麦茎切断機、乾燥殺菌機、洗浄機、	90,000
				麦脱穀費(レンタル)	10,000
				収穫祭(看板・保険代等)	40,000
D	月例ミーティングと農作業打合せ ・生ごみ削減・再生利用の市民への啓もう・推進を企画・立案 ・再生利用の講習会等の企画 ・キッズ生ごみ農園クラブの運営と実践会議 ・麦ストロー作製の試験栽培と研究開発	通年	資料代	10,000	
			生ごみリサイクル全国ネット会費	1,000	
			事務費	10,000	
支出合計					348,600
	区分	(収入の部)			
本年度活動計画	A	収穫祭の参加費500×40	5月～11月	収穫祭(野菜・軽食・保険代)	20,000
	B	農産物の販売	6月～11月	軽トラ市、朝市など4回	20,000
	C	キッズ生ごみ農園クラブ新規会員	通年	家族会員3,600円×3家族	10,800
	収入合計				

◎令和元(2019)年度活動目標・活動計画・予算書

プロジェクト名		レジ袋使用削減プロジェクトチーム				
理想の街 (目指す姿)		レジ袋の使用を減らし、買い物袋(マイバッグ)を持参する意識を定着させることにより、ごみ減量に対して市民が主体的に行動し、資源を大切にしているまち				
R1	目標・数値目標		行動計画			
	・ライフスタイルを「3R(リデュース・リユース・リサイクル)から2R(リデュース・リユース)」を目指す。 ・使い捨てプラスチック容器を削減するために、その代名詞であるレジ袋をもらわないことを習慣とする。 ・マイバッグ持参率を80%以上とする。		①多くの団体特に学校等(若い世代対象)と連携を取りながら、無料配布中止に向けて取り組む。●県・地域振興局との連携 ②レジ袋使用削減の意識啓発を進める。●店頭啓発の継続(啓発用グッズの確認作成)●イベントでの意識啓発●持参率調査●市民団体への協力 ③環境学習の推進●学校等での環境学習啓発用のパンフレット配布 ④来年度以降のプロジェクトチームの活動について、検討を行っていく。			
R2	目標・数値目標		行動計画			
	同上		前年度の反省点や課題等を検証し、目標達成に向け取り組みを継続して行っていく。			
R3	目標・数値目標		行動計画			
	同上		前年度の反省点や課題等を検証し、目標達成に向け取り組みを継続して行っていく。			
数値目標 (長期)	マイバッグ持参率を80%以上とする。			令和元(2019)年度目標活動参加人数		
				300人以上		
		区分	予算(支出の部)	実施予定	説明	金額
本年度活動計画	A	1	環境学習		パンフレット増し刷り	64,700
	B	2	レジ袋使用削減の意識啓発		キャンペーン経費	8,000
					啓発グッズ	36,700
	C	3	アンケート調査		通信費	4,000
	D	4	チーム運営費		コピー代	1,000
					消耗品	11,000
					保険代	5,600
					会場費	1,000
支出合計						132,000
		区分	(収入の部)			
		A				
		B				
収入合計						0

◎令和元年(2019)年度活動目標・活動計画・予算書

プロジェクト名	市民の森づくりプロジェクト				
理想の街 (目指す姿)	四方を山に囲まれた長野市には手入れされた里山があり、そこには多様な動植物が暮らす豊かな森がある。人々はこの里山を利用し、楽しみ、未来につなげる自然の大切さについて学ぶことができるまち				
R1	目標・数値目標	行動計画			
	前年以上の市民、他団体との連携を図る 市民の森づくりに500人以上の参加者を得る 安全作業に徹し、“ゼロ災”とする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・里山の大切さや山の恵みを利用する楽しさを理解・実感し、多くの人に参加してもらい、森林整備、林業講座、自然観察会、山遊び、学習会、など多様性に富んだ活動を行い、また活動の広がりの検討を重ねる。</li> <li>・地元住民との交流や多くの他団体、個人、事業者との連携を図る。</li> <li>・参加人数の増加も大切な事ではあるが、本会としては、安全作業に徹して、無事故・無災害を旨として作業にあたる。</li> </ul>			
R2	目標・数値目標	行動計画			
	前年以上の市民、他団体との連携を図る 市民の森づくりに500人以上の参加者を得る 安全作業に徹し、“ゼロ災”とする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・里山の大切さや山の恵みを利用する楽しさを理解・実感し、多くの人に参加してもらい、森林整備、林業講座、自然観察会、山遊び、学習会、など多様性に富んだ活動を行い、また活動の広がりの検討を重ねる。</li> <li>・地元住民との交流や多くの他団体、個人、事業者との連携を図る。</li> <li>・参加人数の増加も大切な事ではあるが、本会としては、安全作業に徹して、無事故・無災害を旨として作業にあたる。</li> </ul>			
R3	目標・数値目標	行動計画			
	前年以上の市民、他団体との連携を図る 市民の森づくりに500人以上の参加者を得る 安全作業に徹し、“ゼロ災”とする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・里山の大切さや山の恵みを利用する楽しさを理解・実感し、多くの人に参加してもらい、森林整備、林業講座、自然観察会、山遊び、学習会、など多様性に富んだ活動を行い、また活動の広がりの検討を重ねる。</li> <li>・地元住民との交流や多くの他団体、個人、事業者との連携を図る。</li> <li>・参加人数の増加も大切な事ではあるが、本会としては、安全作業に徹して、無事故・無災害を旨として作業にあたる。</li> </ul>			
数値目標 (長期)			令和元(2019)年度目標活動参加人数		
			500人以上		
本年度活動計画	区分	予算(支出の部)	実施予定	説明	金額
	A	森林整備 林業講座	4月～11月	消耗品費(ガソリン、オイル等)	30,000
				ユニックレンタル料金	20,000
				製材機材(電気カンナ、電気マルノコ等)	70,000
	B	秋の里山散策	10月	材料費	10,000
				保険料	1,000
	C	きのこのコマ打ち体験会	4月	きのこの種駒等	15,000
				保険料	1,000
	D	自然観察会 かんじき体験会	6月～10月 2月	かんじき材料(麻縄、針金等)	10,000
				保険料	1,000
	E	傷害・賠償保険料	年間	保険料	50,000
	F	製材機作業小屋作成用材料費	7月～9月	製材作業小屋の鋼材、木材等材料	91,000
	G	会議用資料代	年間	コピー、印刷費等	10,000
	支出合計				309,000
	区分	(収入の部)			
	A	秋の里山散策(B)	10月	参加費(保険料)(@200×20)	4,000
	B	きのこのコマ打ち体験会(C)	4月	参加費(保険料)(@200×20)	4,000
C	自然観察会(かんじき体験)(D)	2月	参加費(保険料、材料費)(@1000×15)	15,000	
収入合計				23,000	

◎令和元(2019)年度活動目標・活動計画・予算書

プロジェクト名		太陽エネルギー普及促進プロジェクト				
理想の街 (目指す姿)		資源を大切にし、再生可能エネルギーである太陽光発電など、再生可能エネルギーを活用した、地球環境保全に配慮した持続可能で活力のあるまち				
R1	目標・数値目標		行動計画			
	・長野県の中での再生可能エネルギー先進地を見学学習し、今後の長野市の活動に活かす。田中ソーラーシェアリングの進行状況を見ながらソーラーシェアリングの可能性に寄与したい！ 参加目標30名		県が「1村1自然エネルギー取り組み事例」として案内している県内の事例から、今年度特に上小地域の活動からまなぶ。大変多くに事例が挙がっているため、自然エネルギー活用事例の中でチームとして関心のある事例を複数見学する。その際、「青木村のエネ空あおきタワー」にも立ち寄る。			
R2	目標・数値目標		行動計画			
	・前年に引き続き再生可能エネルギー先進地を見学学習し、今後の長野市の活動に活かす。ソーラーシェアリング普及事業への取り組み。参加目標100名		県が「1村1自然エネルギー取り組み事例」として案内している県内の事例から、大北地域の事例にまなぶ。その道中、「マメッテイ鬼無里」の発電事業を見学し、学習する。今後の長野市の活動に活かす。田中ソーラーシェアリングが前年実現した場合、田中ソーラーシェアリングの発電状況からソーシェアの利点欠点を研究観察し、ソーシェア事業に興味関心を示す市民に資料提供・案内説明など普及事業にも取り組んでいく。			
R3	目標・数値目標		行動計画			
	・長野市内再生可能エネルギー関連事業団体との連携をはかり、情報交換・合同企画を展望する。長野市の中での再生可能エネルギー実践地の見学学習。参加目標200名		・前年マメッテイ鬼無里での学習を機会にマメッテイ鬼無里との交流を促進し情報交換・合同企画を展望する。また、長野市の中での再生可能エネルギー実践地を見学学習し、再生可能エネルギー関連事業団体との連携を図る。田中ソーラーシェアリング事業の進行状況から、ソーラーシェアリング事業に関心を深める方々に現場への案内会を計画・実施する。			
数値目標 (長期)				令和元(2019)年度目標活動参加人数		
				30	人以上	
		区分	予算(支出の部)	実施予定	説明	金額
本年度活動計画		A	上小地域の1村1自然エネルギープロジェクト状況調査 青木村のエネ空あおきタワー見学・説明を受ける NPO法人上田市民エネルギー訪問 相乗りくんシステム ・市民出資型ソーラーシェアリング事業など学習見学 木質等バイオマスボイラー製造企業団学習見学	7月～8月中	交通費 自家用5台×片道60km ×往復×20円 高速道路料金 910円×5台× 往復 案内謝礼 3,000円×3カ所	12,000 9,100 9,000
		B	田中ソーシェア計画実施予定地見学・途中経過説明を受ける。	10月中		
		C				
		D				
		支出合計				30,100
		区分	(収入の部)			
		A				
		B				
		収入合計				0



◎令和元(2019)年度活動目標・活動計画・予算書

プロジェクト名	聖山自然復元プロジェクト					
理想の街 (目指す姿)	平成21年度末をもって閉鎖となった大岡聖山スキー場の跡地及び聖山周囲の自然環境を、地域の環境に適合した植生に復元し、伝統的土地利用を考慮しながらCO2吸収源の拡大と、ボランティアによるネットワークを構築するまち。					
R1	目標・数値目標		行動計画			
	・スキー場跡地周辺のブナや他樹木から種子や苗木を採取し、育苗して森林化するエリアに植樹する。 ・聖山の自然保護をテーマにした講演会や観察会を地元団体等と共催し、地域への浸透を図る。		・長野県の「県立自然公園魅力発見事業(魅力ある自然公園づくり事業)」の地域会議への参画 ・小学生などの将来の世代への活動の周知啓発(地元小中学校及び市内小学校の高原学校等)			
R2	目標・数値目標		行動計画			
	同上		同上			
R3	目標・数値目標		行動計画			
	同上		同上			
数値目標 (長期)	プロジェクト参加者数(年間・延べ人数) 100人			令和元(2019)年度目標活動参加人数		
	森林再生整備面積 3,000㎡			10人以上		
	区分	予算(支出の部)	実施予定	説明	金額	
本年度活動計画	A					
	B					
	C					
	D					
	支出合計				0	
	区分	収入の部				
	A					
	B					
	収入合計				0	

◎令和元(2019)年度活動目標・活動計画・予算書

プロジェクト名	子どもの環境学習支援プロジェクト				
理想の街 (目指す姿)	こどもエコクラブで主に小学生が親と一緒に活動し、中高生になったら「ながのユースクラブ」で自主的に環境活動をおこない、環境団体との連携も図られているまち				
R1	目標・数値目標		行動計画		
	第8回国際ユース環境会議の参加者 30名		国際ユース環境会議を開催し、長野の環境団体との連携を図る。		
R2	目標・数値目標		行動計画		
	第9回国際ユース環境会議の参加者を増やす		国際ユース環境会議を開催し、長野の環境団体との連携を図る。		
R3	目標・数値目標		行動計画		
	第10回国際ユース環境会議の参加者を増やす		国際ユース環境会議を開催し、長野の環境団体との連携を図る。		
数値目標 (長期)	ユースの自主的な活動組織「ながのユース(国際環境)クラブ」が形成されている			令和元(2019)年度目標活動参加人数	
				200人以上	
	区分	予算(支出の部)	実施予定	説明	金額
本年度活動計画	A	第8回国際ユース環境会議の負担金		通信連絡費	10,000
	B	宿泊・食費・交通費		宿泊費	40,000
				食費	30,000
				交通費	30,000
	C				
	D				
支出合計					110,000
	区分	(収入の部)			
	A	参加費5000円*20名			100,000
	B				
収入合計					100,000

プロジェクト名	ながのカーボンオフセットプロジェクト				
理想の街 (目指す姿)	活動継続に向け調整				
R1	目標・数値目標			行動計画	
R2	目標・数値目標			行動計画	
R3	目標・数値目標			行動計画	
数値目標 (長期)				令和元(2019)年度目標活動参加人数	
				人以上	
	区分	予算(支出の部)	実施予定	説明	金額
本年度活動計画	A				
	B				
	C				
	D				
	支出合計				
	区分	(収入の部)			
	A				
	B				
収入合計					0

◎令和元(2019)年度活動目標・活動計画・予算書

プロジェクト名	小生物の育成環境保全プロジェクト				
理想の街 (目指す姿)	身近な自然環境を守り後世に残すため、里山の小生物(オオムラサキ・カトムシ・クワガタ)などの生育環境を再生し松代に自生するエドヒガン・野生モモが咲く豊かな自然環境の保全を目指す。オオムラサキを含めジャコウアゲハ・アゲハチョウ・キアゲハ・アサギマダラなどが自然に舞う環境の構築に努め啓発活動を進める。				
R1	目標・数値目標		行動計画		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学生・中学生の総合学習の時間を使い観察会を年数回実施する。</li> <li>市民に理解を計るため観察会を実施し啓発活動をする。</li> <li>小中学校200名・市民150名の参加を目指す。</li> <li>エドヒガン育苗作業</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>小中学校観察会恒常的に行うシステムの構築。</li> <li>エドヒガン苗希望者に配布する。公園・海津城公園など目標に進める</li> </ul>		
R2	目標・数値目標		行動計画		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学生・中学生の総合学習の時間を使い観察会を年数回実施する。</li> <li>市民に理解を計るため観察会を実施し啓発活動をする。</li> <li>小中学校及び一般市民対象の観察会を恒常的に開催する。</li> <li>「マツロベニエドヒガン」を松代の海津城址跡地を含め公共施設・学校へ配布して行く。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>小中学校観察会恒常的に行うシステムの構築。</li> <li>エドヒガン苗希望者に配布する。公園・海津城址跡地・学校・公園など目標に進める</li> </ul>		
R3	目標・数値目標		行動計画		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学生・中学生の総合学習の時間を使い観察会を年数回実施する。</li> <li>市民に理解を計るため観察会を実施し啓発活動をする。</li> <li>小中学校及び一般市民対象の観察会を恒常的に開催する。</li> <li>「マツロベニエドヒガン」を松代の海津城址跡地を含め公共施設・学校へ配布して行く。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>小中学校観察会恒常的に行うシステムの構築。</li> <li>エドヒガン苗希望者に配布する。公園・海津城址跡地・学校・公園など目標に進める</li> </ul>		
数値目標 (長期)	竹ノ入を中心にした学習林を軸に長野市の豊かな自然環境の保全を市民が共有できる環境思想の向上を図る。			令和元(2019)年度目標活動参加人数	
				500	人以上
本年度活動計画	区分	予算(支出の部)	実施予定	説明	金額
	A	竹ノ入り整備作業外来植物除伐作業に使用	5月～翌年 6月	チェーンソー刃 1本	5,000
	竹ノ入り整備作業に使用	鎌・スコップ		10,000	
	小生物保護活動に使用	オオムラサキ・小生物食料		3,000	
	チェーンソーに使用	チェーンソーオイル 7本		7,000	
	「マツロベニエドヒガン」育苗(300本)	肥料(化成肥料) 5袋		5,000	
	飼育舎の設置	ハウス・網		50,000	
B	「マツロベニエドヒガン」「フジバカマ」育苗・植樹に使用	5月～翌年 6月	エドヒガン培養土40ℓ入75袋	37,500	
	チェーンソー及び草刈り機に使用		燃料(ガソリン・混合油)	20,000	
	「マツロベニエドヒガン」育苗地及びフジバカマ・ウイキョウ植栽地借地料		借地料(長澤宅・西澤宅)	20,000	
C	共通事項(事務費等)	5月～翌年 6月	葉書代	20,000	
			インク・コピー用紙等	26,500	
			作業時飲料水代	10,000	
			会場費	10,000	
			交通費	10,000	
D					
支出合計					234,000
区分	(収入の部)				
A					
B					
収入合計					0

◎令和元(2019)年度活動目標・活動計画・予算書

プロジェクト名	生態系豊かな、水に親しめる川づくり(水環境保全)プロジェクト				
理想の街 (目指す姿)	市街地を流れる川には清らかな水が流れ、多くの生き物が生息し、周辺を散策する人々が心いやす水辺を備えたまち				
R1	目標・数値目標		行動計画		
	①休会が続いていたチームの活動を復活させる。 ②他団体の主催の活動に参加し、来年度以降のチーム独自の活動を検討する。		①長野市主催の環境学習会 水生生物調査「夏の川遊び1、2」への協力 ②「身近な水環境全国一斉調査」への協力 ③公開学習会2019及び第9回ながの環境団体大集合への参加		
R2	目標・数値目標		行動計画		
	チーム独自の活動を実施していく。		前年度の実施事業の課題等を検討し、目標を達成するために行動する。		
R3	目標・数値目標		行動計画		
	同上		前年度の実施事業の課題等を検討し、目標を達成するために行動する。		
数値目標 (長期)				令和元(2019)年度目標活動参加人数	
				100 人以上	
	区分	予算(支出の部)	実施予定	説明	金額
本年度活動計画	A	長野市主催の環境学習会 水生生物調査「夏の川遊び1、2」への協力	7月下旬 8月上旬	胴付長靴	20,000
	B	「身近な水環境全国一斉調査」への協力	6月上旬		
	C	公開学習会への参加 ながの環境団体大集合への参加	10~12月	写真・資料代	10,000
	D	運営費 (市内小中学校や他チームとの連携含む)	通年	ガソリン代(500円/台×4台×5人)	10,000
支出合計					40,000
	区分	(収入の部)			
	A				
	B				
収入合計					0

◎令和元(2019)年度活動目標・活動計画・予算書

プロジェクト名	ぼんすけ育成プロジェクト				
理想の街 (目指す姿)	里山に生息する絶滅危惧種の多くは、市街地の開発された平野部に生息していた身近な生き物であった。つまり、開発によって生息場所を追われ、里山にかりうじて生き残っているといえる。過疎の進行した里山で絶滅危惧種の保全の問題を解決することは難しい。ぼんすけ(シナイモツゴ)をシンボルとして、里山の役割と現状を市街地住民にも知ってもらい、里山と市街地の市民が保全目標を共有できる街にしたい。				
R1	目標・数値目標		行動計画		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察会と勉強会の開催</li> <li>・ぼんすけ田圃とぼんすけ林檎の栽培</li> <li>・ぼんすけの生息する里山で収穫された農産物(米と林檎)の販売</li> <li>・ぼんすけ保全池の整備の開始</li> <li>・数値目標は、自然観察会等の参加者数350名とする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・シナイモツゴ自然観察会の実施</li> <li>・稲作と林檎の栽培</li> <li>・ブランド農産物の販売</li> <li>・ため池の保全活動(ため池の調査含む)</li> <li>・定例会や講演会の開催</li> </ul>		
R2	目標・数値目標		行動計画		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察会と勉強会の開催</li> <li>・ぼんすけ田圃とぼんすけ林檎の栽培</li> <li>・ぼんすけの生息する里山で収穫された農産物(米と林檎)の販売</li> <li>・ぼんすけ保全池の整備の開始</li> <li>・数値目標は、自然観察会等の参加者数400名とする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・シナイモツゴ自然観察会の実施</li> <li>・稲作と林檎の栽培</li> <li>・ブランド農産物の販売</li> <li>・ため池の保全活動(ため池の調査含む)</li> <li>・定例会や講演会の開催</li> </ul>		
R3	目標・数値目標		行動計画		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察会と勉強会の開催</li> <li>・ぼんすけ田圃とぼんすけ林檎の栽培</li> <li>・ぼんすけの生息する里山で収穫された農産物(米と林檎)の販売</li> <li>・ぼんすけ保全池の整備の開始</li> <li>・数値目標は、自然観察会等の参加者数400名とする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・シナイモツゴ自然観察会の実施</li> <li>・稲作と林檎の栽培</li> <li>・ブランド農産物の販売</li> <li>・ため池の保全活動(ため池の調査含む)</li> <li>・定例会や講演会の開催</li> </ul>		
数値目標 (長期)	いい自然を守る～シナイモツゴももうれしい～そんな共生と呼ばれるような環境保全を目指していきます。			令和元(2019)年度目標活動参加人数	
				350	人以上
	区分	予算(支出の部)	実施予定	説明	金額
本年度活動計画	A	啓発活動 勉強会及び講演会の開催(冬期間)	1～3月	講師謝金	5,000
				チラシ作成費	35,000
	B	ため池の保全管理 シナイモツゴ生息地の維持管理活動(草刈等)	4～10月	刈払機 1台	20,000
	C	定例会開催(毎月第3水曜日13:30～信里合同庁舎) 定例会(講演会)開催に伴う費用	通年	事務費(コピー用紙代等)	25,000
				講師謝金等	5,000
	D				
	支出合計				
	区分	(収入の部)			
A	ぼんすけTシャツ・バッチ・農産物の販売				50,000
B					
収入合計					50,000

◎令和元(2019)年度活動目標・活動計画・予算書

プロジェクト名	ゴマシジミ保護・育成プロジェクト				
理想の街 (目指す姿)	「元気なふるさと浅川を創生する」を目標に、浅川地区での地域資源の見直しと地域住民の意識の高揚を図り、地域活動への参画意欲を高めるため、浅川地区まちづくり計画を策定し、現在、各種事業を展開している。その事業の一環として地区内に生息が確認されている県指定希少種の蝶「ゴマシジミ」の保護・育成活動を地域住民と協働で実施し、「ふるさとの魅力を自然の豊かさで体験できる環境整備」の推進を図っていく。				
R1	目標・数値目標		行動計画		
	* 専門家等による講習会及び学習会の実施 * 紙芝居の作成及び上演 * フレモコウの育苗・植栽・保護 * 捕獲禁止の立て看板の作成・生息地への設置 * 生息地内のパトロール・注意喚起 * 生息地周辺の草刈り・間伐 * 生息地範囲の杭打ち 参加者:100人(年間)		1) 専門家等による講習会及び学習会の実施 2) 紙芝居の作成及び上演 3) フレモコウの育苗・植栽・保護 4) 捕獲禁止の立て看板の作成・生息地への設置 5) 生息地内のパトロール・注意喚起 6) 生息地周辺の草刈り・間伐 7) 生息地範囲の杭打ち		
R2	目標・数値目標		行動計画		
	* 生息地の草刈り・間伐 * 生息地周辺パトロール * フレモコウ育苗・植栽 * 植栽地状態の観察・研究 参加者:140人(年間)		1) 生息地の草刈り・間伐 2) 生息地周辺パトロール 3) フレモコウ育苗・植栽 4) 植栽地状態の観察・研究		
R3	目標・数値目標		行動計画		
	同上		同上		
数値目標 (長期)	いい自然を守る～シナイモツゴももううれしい～そんな共生と呼ばれるような環境保全を目指していきます。			令和元(2019)年度目標活動参加人数	
				350 人以上	
本年度活動計画	区分	予算(支出の部)	実施予定	説明	金額
	A	ゴマシジミの説明冊子(大阪府立大学上田先生推薦) 編・北広島森の倶楽部・ゴマシジミ研究部	通年	冊子代	14,040
	B	フレモコウ植栽	4月～5月	腐葉土 10袋	4,960
	C	生息地パトロール(一日2名にて対応)現地往復(約8km)	3月～5月	燃料費 1回2,000円	26,000
D	定例会	1月～5月	会議費及び事務費	5,000	
支出合計					50,000
区分	(収入の部)				
A	浅川地区住民自治協議会 補助金				10,000
B					
収入合計					10,000

◎令和元(2019)年度活動目標・活動計画・予算書

プロジェクト名		田中桜公園作り&里山づくりプロジェクト				
理想の街 (目指す姿)		若槻地区田中の桜公園作りを推進力に里山を里山らしく利用、保全を行う活動を展開することで、自然災害に強く、後継者も育ち定着する持続可能な地域作り・協力し支え合あう地域・まち				
R1	目標・数値目標		行動計画			
	(前期)これまで関わったすべての参加者の公園作りとなるように、アンケートを採り、結果を返し、みんなで練り上げる作業を重ねて参加者が「こういう風な散策路を作りたい」と思える構想を練る。途中、構想の固まった部分から散策路を実際に作り始める。(7月29日・30日) 10月来春咲くように花壇作りをすると共に、散策路も作り続ける。後半冬場は桜公園祭りの準備をしながら春を待つ。3月初め、秋に花壇作りをし植えた福寿草・水仙・チューリップなど春の花を楽しみつつ、散策路作りを進め、桜公園祭りで、散策路のお披露目をする。参加目標300名		散策路作成計画①アンケート取り②アンケート反映の散策路計画発表＝改善意見を募り、更に案を進化させる。③7月29・30日夏の里山づくり学習会 散策路に木製の階段を作る方法を体験し、一部計画の散策路に設置チャレンジ。④秋、花壇作りと散策路づくり ⑤来春の桜公園祭り準備と実施・散策路完成披露			
R2	目標・数値目標		行動計画			
	(前期)4月桜祭りの実施 5月東屋づくりの計画を立てる。7月～10月東屋作り。10月下旬完成式 (後期)春のイベント公園祭り・お花見界の計画作りと準備・実行 参加目標300名		(東屋づくりの実行)7月から10月は、計画に従いゆっくり着実に東屋を完成に導く作業を、子どもから大人まで、それぞれの特技、力を活かした参加の仕方で作成、みんなで完成を喜び合う。			
R3	目標・数値目標		行動計画			
	みんなで考え、みんなで作ることを積み重ねてきたことを記す「桜公園案内板」作り 参加目標 400名		案内板作成計画の実行 みんなのイメージを集約・反映させた「案内板」			
数値目標 (長期)	400名 パートナーシップ会員100名		令和元(2019)年度目標活動参加人数			
			300 人以上			
		区分	予算(支出の部)	実施予定	説明	金額
本年度活動計画		A	散策路 階段作り資材購入費 ①防腐剤	7月～10月		6,000
			②固まる砂 10袋			6,000
			③防草シート本			2,500
			④バーク5袋			7,500
		B	花壇づくり 福寿草など苗購入費 堆肥など		15,000	
					3,000	
		C	夏里山づくり学習会 講師費用		10,000	
		D				
支出合計					50,000	
		区分	(収入の部)			
		A				
		B				
収入合計					0	



令和元(2019)年度 ながの環境パートナーシップ会議 予算書(案)

収入

単位:円

項 目	30予算額	30決算額	01予算額	01予算額- 30予算額	説 明
I 負担金・会費	1,075,000	1,080,500	1,090,000	15,000	
1 負担金・会費	1,075,000	1,080,500	1,090,000	15,000	市負担金(1,000千円)、会費(500円×180)
II 事業収入等	270,581	333,250	440,000	169,419	
1 事業収入	210,000	273,745	380,000	170,000	バナー広告料、活動成果報告書印刷費助成
2 雑収入	60,581	59,505	60,000	△ 581	寄附金、預金利子
III 繰越金	209,419	209,419	338,206	128,787	
1 繰越金	209,419	209,419	338,206	128,787	前年度繰越金
合 計	1,555,000	1,623,169	1,868,206	313,206	

支出

単位:円

項 目	30予算額	30決算額	01予算額	01予算額- 30予算額	増 減 理 由
I 活動費	160,000	118,616	118,000	△ 42,000	
1 自主事業活動費	110,000	64,850	60,000	△ 50,000	ながの環境団体大集合、学習会
2 共催・参加事業活動費	50,000	53,766	58,000	8,000	信州環境フェア、山の日ウォーキング、ライトダウンキャンペーン負担金、長野エコ活動推進本部年会費
II プロジェクト活動費	977,000	830,738	1,210,100	233,100	
1 生ごみ削減・再生利用	229,000	229,000	298,000	69,000	
2 レジ袋使用削減	113,000	110,786	132,000	19,000	
3 市民の森づくり	272,000	231,572	286,000	14,000	
4 太陽エネルギー普及促進	26,000	0	30,100	4,100	
5 聖山自然復元	0	0	0	0	
6 子どもの環境学習支援	40,000	40,000	10,000	△ 30,000	
7 ながのカーボンオフセット	0	0	0	0	活動継続に向け調整中
8 小生物の生育環境保全	167,000	167,000	234,000	67,000	
9 生態系豊かな、水に親しめる川づくり	0	0	40,000	40,000	
10 ぼんすけ育成	40,000	0	40,000	0	
11 ゴマシジミ保護・育成	40,000	24,640	40,000	0	
12 田中さくら公園作り&里山づくり	50,000	27,740	50,000	0	
13 新規プロジェクト	0	0	50,000	50,000	
III 保険料	53,000	58,450	59,500	6,500	
1 保険料	53,000	58,450	59,500	6,500	ボランティア活動保険料(350円×170)
IV 広報費	282,000	242,402	382,800	100,800	
1 啓発・報告書等費	73,000	57,640	305,000	232,000	活動成果報告書印刷費、広告料
2 ホームページ維持費	209,000	184,762	77,800	△ 131,200	レンタルサーバ、ドメイン使用料、HP維持費
V 事務局費	52,000	34,757	74,820	22,820	
1 事務局運営費	52,000	34,757	74,820	22,820	事務消耗品、振込手数料、郵送料
VI 予備費	31,000	0	22,986	△ 8,014	
1 予備費	31,000	0	22,986	△ 8,014	
合 計	1,555,000	1,284,963	1,868,206	313,206	

※会計年度:平成31年6月1日~令和元年5月31日

## 会費規程の一部改定について

本会の年会費の改定について、昨年度からアンケート等で会員の皆様から御意見をいただいております。

### ○アンケートでの主な御意見

- ・会員数が減少することが考えられるので、会費の値上げには反対。
- ・会費以外の収入源を求めていく活動が必要ではないか。
- ・会費の値上げもやむをえない。 等

いただいた御意見を踏まえ、理事会で審議したところ、令和元年5月16日の理事会で次のように承認されました。

### ○年会費について

- ・年会費の口数制の導入
- ・一口 500 円
- ・会員は一口以上で任意の額を支払うこととする

### ○「会費規程」の改定

ながの環境パートナーシップ会議会費規程（平成 22 年 1 月 27 日施行）の一部を次のように改定します。

改定後	改定前
<p style="text-align: center;">（会費の額）</p> <p>第 2 条 会員が一事業年度に納入すべき会費の額は、入会の時期にかかわらず、<u>一口500円</u>とする。</p> <p><u>2 会員は一口以上で任意の額を支払うものとする。</u></p>	<p style="text-align: center;">（会費の額）</p> <p>第 2 条 会員が一事業年度に納入すべき会費の額は、入会の時期にかかわらず、<u>500円</u>とする。</p>
<p style="text-align: center;"><u>附 則</u></p> <p><u>この規程は、令和元年6月16日から施行する。</u></p>	

ながの環境パートナーシップ会議 新聞等掲載一覧表 (H30.6.1~R1.5.31)

番号	掲載年月日	掲載新聞名 広報紙名	掲載記事見出し	掲載記事の関係団体名 (P会議プロジェクト及びP会議会員団体等)
1	H30.6.21	長野市民新聞	ライトダウンキャンペーン2018 in ながの 広告	ライトダウンながの実行委員会
2	H30.6.24	信濃毎日新聞	未来図 長野から発信へ 海外の仲間と環境問題学習	国際ユース環境会議実行委員会 (子どもの環境学習支援PT)
3	H30.6.28	信濃毎日新聞	絶滅危ぶまれるシナイモツゴ 長野の信里で観察会	ぼんすけ育成PT
4	H30.7.3	長野市民新聞	エシカルの店 マップを制作	NPO法人みどりの市民
5	H30.7.3	長野市民新聞	児童 チョウを観察 松代生息オオムラサキ	小生物の育成環境保全PT
6	H30.7.3	長野市民新聞	自然と向き合い活動	中島佐代子さん (信州フォレストワーク理事長)
7	H30.7.3	信濃毎日新聞	子ども食堂 県内でさらに 取り組む有志が研修会	信州子ども食堂ネットワーク (事務局・NPOホットライン信州)
8	H30.7.5	長野市民新聞	生ごみ堆肥で育てた野菜 屋島の畑で収穫体験	生ごみ削減・再生利用PT
9	H30.7.5	信濃毎日新聞	オオムラサキの繁殖地で観察会 長野市松代120人参加	小生物の育成環境保全PT
10	H30.7.12	長野市民新聞	浅川自治協が食草植栽 ゴマシジミ保護	ゴマシジミ保護・育成PT
11	H30.7.12	長野市民新聞	篠ノ井信里地区でシナイモツゴ16日に観察会	ぼんすけ育成PT
12	H30.7.19	長野市民新聞	シナイモツゴ生息環境学ぶ 信里小で観察会	ぼんすけ育成PT
13	H30.7.24	長野市民新聞	アレチウリを駆除 犀川の河川敷で	豊かな環境づくり長野地域会議 (P会議として参加)
14	H30.7.24	長野市民新聞	平成30年盛夏 暑中お見舞い申し上げます 広告	ながの環境パートナーシップ会議
15	H30.7.25	信濃毎日新聞	シナイモツゴ身近にいたよ 長野で児童ら観察会	ぼんすけ育成PT
16	H30.7.26	長野市民新聞	生ごみ堆肥で栽培のイモ収穫 屋島の畑で体験会	生ごみ削減・再生利用PT
17	H30.7.28	長野市民新聞	循環型社会の構築へ 生ごみ堆肥の普及に力点	NPO法人みどりの市民
18	H30.8.18	長野市民新聞	空 NPOのリレーコラム エシカル消費	渡辺ヒデ子さん (NPO法人みどりの市民事務局長)
19	H30.8.22	信濃毎日新聞	絶滅危惧種 長野・浅川の霊園で ゴマシジミ 飛び回る	ゴマシジミ保護・育成PT
20	H30.8.30	長野市民新聞	家族連れが野菜収穫 芋井の体験農場 早速バーベキューに	天空の里いもい農場
21	H30.9.29	長野市民新聞	ごみ減らす調理法は 若槻自治協が環境講座	生ごみ削減・再生利用PT
22	H30.10.11	長野市民新聞	信里小の池補修 シナイモツゴを保護	ぼんすけ育成PT
23	H30.10.18	長野市民新聞	校外学習で浅川散策 北部中1年生 チョウ生息地など巡る	ゴマシジミ保護・育成PT
24	H30.10.18	信濃毎日新聞	アサギマダラ 松代彩り 市民整備のフジバカマに飛来	小生物の育成環境保全PT
25	H30.10.20	長野市民新聞	エコ活動本部 設立へ 商議所がごみ減推進で	長野エコ活動推進本部 (長野商工会議所)
26	H30.10.23	信濃毎日新聞	持続可能な社会を考えよう 長野で来月13日 公開学習会	ながの環境パートナーシップ会議
27	H30.10.27	長野市民新聞	事業系ごみの削減へ 長野エコ活動推進本部設立	長野エコ活動推進本部
28	H30.10.27	長野市民新聞	気候変動や人権 国際目標を学ぶ 市役所で13日	ながの環境パートナーシップ会議
29	H30.10.27	週刊長野	ながの環境パートナーシップ会議公開学習会	ながの環境パートナーシップ会議
30	H30.11.6	長野市民新聞	オオムラサキ生息地に看板 松代の関係者ら除幕	小生物の育成環境保全PT
31	H30.11.15	長野市民新聞	信里でため池保全 ヨシ刈りや泥の除去	ぼんすけ育成PT
32	H30.11.22	長野市民新聞	ながの環境団体大集合2018 広告	ながの環境団体大集合 スペシャルプロジェクトチーム
33	H30.12.7	信濃毎日新聞	ヤンジャ ながの環境パートナーシップ会議に参加の大学生	鈴垣光さん(信大)、矢野智子さん(信大)
34	H30.12.8	長野市民新聞	市内の環境団体取り組み発表 15日の集いで	ながの環境団体大集合 スペシャルプロジェクトチーム

35	H30.12.8	週刊長野	「持続可能な開発目標」環境保全へ講演・分科会	ながの環境団体大集合 スペシャルプロジェクトチーム
36	H30.12.20	長野市民新聞	「SDGs」を学ぶ 未来への開発目標	ながの環境団体大集合 スペシャルプロジェクトチーム
37	H30.12.20	長野市民新聞	ライトダウンキャンペーン2018 in ながの 広告	ライトダウンながの実行委員会
38	H31.1.19	長野市民新聞	空 NPOのリレーコラム 若者たちが環境問題に取り組む	小林達矢さん (市民協働サポートセンター)
39	H31.2.25	エコシン	第8回「ながの環境団体大集合」が開催されました	ながの環境団体大集合 スペシャルプロジェクトチーム
40	H31.3.28	長野市民新聞	田中桜公園に看板 地元有志 存在アピール	田中さくら公園作り&里山づくりPT
41	H31.4.11	長野市民新聞	松代の桜苗木 浅川に ダムや霊園周辺に	小生物の育成環境保全PT ゴマンジミ保護・育成PT
42	H31.4.20	週刊長野	種をまき 苗を育てて配る 町中にエドヒガンザクラを	小生物の育成環境保全PT
43	R1.5.18	長野市民新聞	空 NPOのリレーコラム 「エシカルふえすinながの」開催へ	渡辺ヒデ子さん (NPO法人みどりの市民事務局長)
44	R1.5.25	週刊長野	生ごみ堆肥化の会員募集	NPO法人みどりの市民
45	R1.5.25	信濃毎日新聞	持続可能な開発 ゲーム通し体感 長野で県NPOセンター	長野県NPOセンター

# 児童チヨウウを観察

## 松代生息オオムラサキ 西条・清野小合同で



手に取ったオオムラサキに息を近づ

この林地区内にある西条・清野の両小学校の合同で6月8日、松代町東条竹久地内の林地区生息オオムラサキの観察会が行われ、西条・清野両校の児童が参加し、オオムラサキの幼虫を観察した。観察会は、両校の児童が合同で行われ、西条・清野両校の児童が参加し、オオムラサキの幼虫を観察した。観察会は、両校の児童が合同で行われ、西条・清野両校の児童が参加し、オオムラサキの幼虫を観察した。

H30.7.3  
長野市民新聞

# 生ごみ堆肥で育った野菜 屋島の畑で収穫体験

農ラ  
スラ  
キ  
ク

生ごみ堆肥を使って育てられた野菜を収穫する体験会が行われ、参加者は生ごみ堆肥の良さを学びました。体験会は、両校の児童が合同で行われ、西条・清野両校の児童が参加し、オオムラサキの幼虫を観察した。

同クラブは長野市

5月から農地48坪



大きく育ったダイコンを収穫

の一角を1坪(3.3平方メートル)に区切って会... 収穫と苗植えを家族... 家族会員のうち3組が... 早速、借りてトマトや...

H30.7.5  
長野市民新聞



浅川小児童が育てたワレモコウを植える地元住民ら

### 浅川自治協が食草植栽

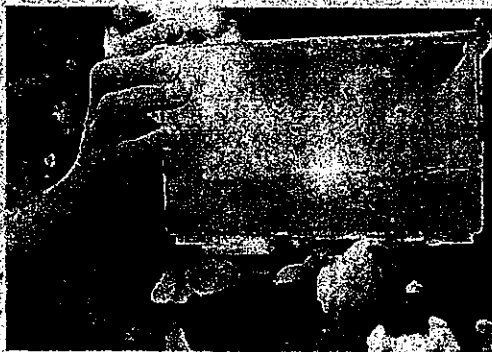
「マシシ」保護止息地の市霊園に  
長野市霊園川浅川河川地区では住民全体で  
水川に生息するマシシ保護活動を進めてお  
る。絶滅危惧種に指定され、児童は校内で1年  
かけてワレモコウを育  
ませ、マシシを保護しよ  
うと、浅川地区住民  
自治協管内のチーム18  
（平成28）年、霊園  
は10日、地元の浅川小  
学校の児童が育てたワ  
レモコウから種子を採取  
し、播きまいた。次世  
代を園内に植えた。

保全活動に参加してほ  
しいと、児童に苗の生  
育を依頼していた。  
30号ほどに育った苗  
約180株を学校側か  
ら受け取り、地元ボラ  
ンティアや霊園職員ら  
計10人で作業。マシシ  
の生息が確認され  
ている霊園霊園周辺に  
植えた。  
チームメンバーで同  
霊園場長の徳永昭行さ  
んは「立派な苗を育て  
てもらいありがたい。  
うまくなるとマシシ  
の保護につながる  
ことを期待したい」と  
話していた。  
霊園内ではワレモコウの  
密猟者も目撃されてい  
る。これから7月下旬  
ごろ月上旬の播種シー  
ズを前に監視カメラ  
ラ一台を試験的に設  
置する方針。保護のた  
め一般の立ち入りを禁  
じた区画を監視する。  
シーズン中は昨年につ  
きパトロールも実施す  
る。

### シナイモツゴ 生息環境学ぶ

信里小で観察会

信里小学校敷地内や  
周辺の池で16日、地元  
の篠ノ井信里地域の住  
民から「ぼんすけ」の  
愛称で親しまれる淡水  
魚シナイモツゴの観察  
会があった。地元の保  
護団体「ぼんすけ育成  
会」の主催。会員や一  
般の約40人が、絶滅が  
危惧されるシナイモツ



水槽に入れたシナイモツゴを  
観察

ゴの生息環境や保護の  
意義に理解を深めた。  
参加者は、観察用に  
池の魚を捕まえる網を  
使って1時間近く、魚  
物の種類が少なく、と

し、「シナイモツゴも  
何かのまっか  
かけでいなくな  
る可能性がある  
と指摘した。信里小  
学校6年生の  
山本英君は「ぼん  
すけは口を  
パクパクと  
してかわい  
い。池を汚

き、中に掛かったシナイモツゴなどを容器に移して観察。盛んに口を開閉する様子に見入ったり、手に取ったりしていた。捕まえた魚は後で池に戻した。

案内役の古賀和人

「ぼんすけ、貴重な魚を守りたい」と意欲を高めて、1の信里食品北条町から、活動支援をうけた。

観察会は、同育成会で同社の即席種シナイが16（平成28）年から「ちんぷらそん」にて定期的に開き、4回の食が寄贈された。

H30.7.24  
長野市民新聞

# アレチウリを駆除

委員会や長野大橋付近 犀川の河川敷で



アレチウリを駆除する参加者

右穂牛島の落合橋や、あつた。30度を超える  
青木島側橋の長野大 警之中、県職員や長  
橋付近の犀川河川敷で 野市環境部職員、市民  
18日、特定外来生物ア 団体など約70人が「ア  
レチウリの駆除作業が」の手作業で根元から

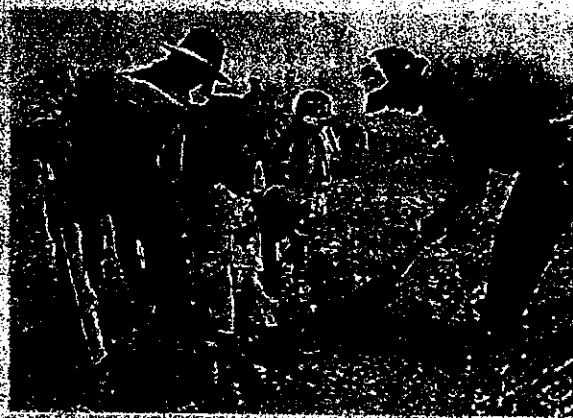
抜いた。  
県や市町村などによ  
る「生ごみ堆肥」の  
「長野地域会議」の水  
環境保全活動の一環  
で、10（平成22）年か  
ら毎年アレチウリが種  
をつける前の6月〜7  
月上旬に行っている。  
これまで落合橋付近  
で駆除していたが、今  
年は長野大橋付近まで  
範囲を拡大した。  
作業前には同会議幹  
務局の原長野地域振興  
局長環境課の職員が、ア  
レチウリの駆除方法や  
似ているクズとの見分  
け方について説明。長  
野大橋付近で作業した  
約20人は、木に絡まっ  
たツルを引、張りの繁  
殖を抑えるため根から  
抜き取っていた。  
参加したながの環境  
パートナーシップ会議  
の河西弘明さん（66）  
は「日なだの繁殖具合  
がすごくて驚いた。今  
後も駆除を続ける必要  
がある」と認識を新た  
にしていた。

H30.7.26  
長野市民新聞

# 生ごみ堆肥で 栽培のイモ収穫

屋島の畑で体験会

長野市などでつくる  
「ながの環境パートナ  
ーシップ会議」の生ご  
み削減・再生利用チー  
ム（河西弘明チームリ  
ーダー）は22日、落合  
橋近くにある屋島の畑  
で生ごみ堆肥で栽培し  
たジャガイモの収穫体  
験会を開いた。同会議  
の関係者や家族連れら  
約60人が、大きく育っ  
たジャガイモを掘り出  
した。  
参加者は、同チーム  
が4月に種芋を植えた



約300平方メートルの畑  
で、ミニトマトなどの  
品種を収穫。子供は大  
人にジャガイモを掘ら  
せてもらい、運まっ  
ているジャガイモを探し  
出した。  
家族で参加した松代

ジャガイモ  
の収穫を楽  
しむ子供ら  
小学校3年  
の山口主苑  
君（8）は  
「ジャガイ  
モがいつば  
い取れて楽  
しかった」と喜んでい  
た。

H30.9.29  
長野市民新聞

# ごみ減らす調理法は

## 若槻自治協が環境講座

若槻地区住民自治協議会の自然環境部会は28日、生ごみの削減を推進するために学芸館若槻ロコモユニティセンターで開いた環境対策を取り組む「ながの環境ハートプロジェクト」の生ごみ削減・再生利用プロジェクトチームと共同で企画。15人が生ごみを最小限に抑える調理方法を体験した。



生ごみを最小限に抑えた料理に挑戦する参加者

前半の調理講座で、小山道子さんの指導で、どし品を作った。野菜を切る際には食べられない部分まで切り落とさないよう、注意して包丁を入れていた。食材には同会議が生ごみ堆肥を使って育てている野菜を使用。参加者は「食の循環」にも目を向けていた。地元から参加した佐藤孝男さんは「これからは生ごみを少なくするよう心がけたい」と意識を改めたい。講座は毎年開催。後半は同会議が開発した生ごみを堆肥化させる発酵入りの土や、土

と生ごみを入れて保管する専用の段ボールの使い方などを学んだ。



市営園でゴマシジミの幼虫が食べたワレモコウを探す生徒

## 校外学習で浅川散策

北部中学校1年生2 歴史、農業などを7コースに分かれ、住民ら講習で地元の浅川地区の師の案内で散策。熱心な観察をした。自然や土

城への理解を深めた。自然や生物、植物がテーマのコースには24人が参加。市営園内にある絶滅危惧種のチョウ「ゴマシジミ」の生息地や、長距離を渡るチョウ「アサギマダラ」のために住民が浅川ダム付近に設けた食草「ツバカマ」の植栽地などを巡った。

真光寺ルーツ橋下にある虫の生息地では、浅川沿いのホタル再生に取り組み、ホタルの舎の中澤健次郎さん(78)と浅川西条井から「浅川の水は有機物を多く含む、虫のえさとなるカワニナが育ちやすい」と説明を受けた。ダム下流の真光寺に住民が整備した遊の観察地を確保し

た。生徒の中島龍二郎さん(13)は「ゴマシジミ」と話していた。保護のために、自分も何が出来るか考えた。

H30.10.18  
長野市民新聞



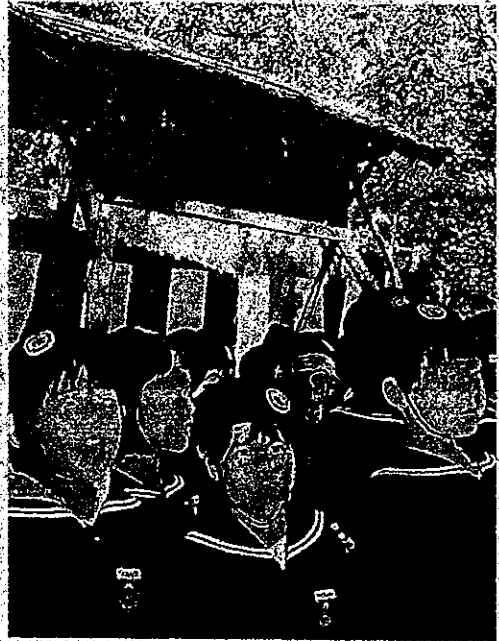
# オオムラサキ 生息地に看板

松代地区住民自治協  
議会などは、チヨウの  
「オオムラサキ」を保  
護する松代町の林地に  
看板を設置し、1日に  
現地で開催された開い  
た。地元関係者や保護  
活動団体のメンバー、  
来賓などが出席。貴重  
な自然環境を永久に守  
る決意を新たにした。

## 松代の関係者ら除幕 環境保護の決意新たに

看板は横1・7メートル、縦40センチの木板。加藤市長の揮毫（きこう）によって「国産オオムラサキの里」の文字を手彫りし、オオムラサキの絵を添えた。式には、まきは保育園川松代温泉川の園児約60人も参加。園児の代表が市長らと一緒に除幕し、全員で「環境保護の決意新たに」とを合唱した。

オオムラサキの保護に20年以上取り組む地元の小林正幸さん（76）によると、約7分の林地は、オオムラサキの保護に向けて、約15（平成27）年



看板の除幕に花を添えた園児の合唱

土地所有者の企業から約200本の寄付を受け、その間無償借して管理。松代自治体も複数の保護活動団体が市と連携

して間伐や下草刈りをするなど環境を整え、小・中学生向けに自然観察会を開いている。

H30.11.6  
長野市民新聞

H30.11.15  
長野市民新聞

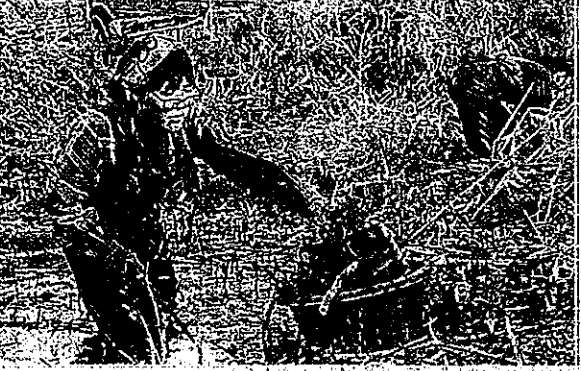
# 信濃のため池保全

信濃川流域で絶滅危惧種の淡水魚ヨシケイを保護する活動に取り組み、信濃川流域のヨシケイの保全活動に取り組む。同日、生息地を調査した。冬のため池が枯渇する地域の環境を、ヨシケイの生息地を守るため、関係団体や関係機関と連携し、ヨシケイの生息地を調査した。同日、生息地を調査した。冬のため池が枯渇する地域の環境を、ヨシケイの生息地を守るため、関係団体や関係機関と連携し、ヨシケイの生息地を調査した。

## ヨシ刈りや泥の除去

ほんすけ育成会 生態系維持へ汗

シヤの繁殖で最終的(平成28年)から所有には陸地化し、地域の保全作業を順に進め、生物多様性を損なう恐れがある。このため、同会は16日、計5カ所に入った。

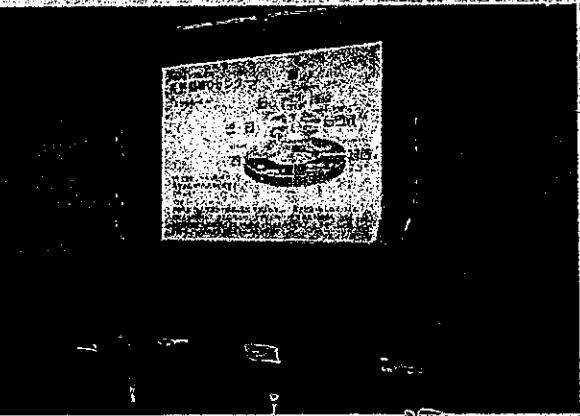


泥だらけになってヨシを刈る会員

生態工場の片岡友宏さん(46)は、非営利団体の信濃川流域のヨシケイの保全活動に取り組んでいる。冬のため池が枯渇する地域の環境を、ヨシケイの生息地を守るため、関係団体や関係機関と連携し、ヨシケイの生息地を調査した。

# 「SDGs」を学ぶ

ながの環境パートナーシップ会議 未来への開発目標



国連が提唱する「持続可能な開発目標」(SDGs)について学び、市内外から参加した。同日、市内外から参加した。同日、市内外から参加した。同日、市内外から参加した。

活動を紹介する県NPセンターの山室事務局長。同日、市内外から参加した。同日、市内外から参加した。同日、市内外から参加した。

H30.12.20  
長野市民新聞

# 田中桜公園看板

地元有志 存在アピール



右側地区田中の住民「すいね」などが看板を掲げて地元有志の存在をアピールしている。看板は、杉の名所を田中公園に設置した。田中公園の看板は、実行委員会の主任委員の呼びかけで掲げられた。看板は、田中公園の看板は、実行委員会の主任委員の呼びかけで掲げられた。看板は、田中公園の看板は、実行委員会の主任委員の呼びかけで掲げられた。

掲げられた看板

H31.3.28  
長野市民新聞

同公園は、住民有志が約4500平方メートルの耕作放棄地を整備中。木約80本を植樹して、過去2回の公園祭りを開催している。昨年より6本が、タイリョウソウクラの花を咲かせたという。

# 松代の桜苗木 浅川に

## 自治協 譲り受け植栽へ ダムや霊園周辺に

同自治協は、地域活性化の手段で数年前から浅川ダムやマブランド整備として知られる八幡(やへし)神社などで苗木を育成している。遊歩道を整備、憩いの空間を目指して治道に花木を植えている。



浅川地区では、地元有志らでつくる「小生の育成環境保全プロジェクト」が16(平成27)年から、杉や桐などの苗木を育てている。

H31.4.11  
長野市民新聞

昨年、希望のあった地区の区や学校などに提供した。この活動を知った浅川自治協が、遊歩道沿いに植える苗木を譲ってほしいと松代自治協を介して依頼。松代自治協は40本を譲り受け、浅川ダム周辺の遊歩道沿いに20本を加える計画。市霊園付近の市道沿いには、霊園を管理する市開発公社に20本を贈り、備わが自立した苗木のメンテナンスの代わりに植える。エドヒガンの苗木を協力して掘り出す関係者

予定。4日の作業には松代の8人と浅川の4人が参加し、高さ約1.5メートルに成長した苗木を掘り出した。残り10本は近々掘り出す。松代の関係者によると、エドヒガンは順調に育っている。花を咲かせるとい

# 種をまき 苗木を育てて配る 町中にエドヒガンザクラを

## 住民らが松代千本桜大作戦

「信濃阿蘇のロコモギ」の活動を続けるメンバーは、長野県オオムラサキの保護活動に、松代地域でもエドヒガンザクラの苗木を植、81年から取り組んでいる。松代の町中にエドヒガンザクラが広がってほしいと、松代町民が力を合わせて活動している。松代町民が力を合わせて活動している。松代町民が力を合わせて活動している。



松代町民らがエドヒガンザクラの苗木を植える様子。左から「信州松代千本桜大作戦」のメンバー。

法川地区まちづくり計画チームの人たちと写真に収まる。写真はいずれも4月4日、松代城跡北側の畑で。



メイシンの多くは、戦後、昨年初めて、公園や神社といった公共の場所に植栽され、樹勢が弱った木が目立つようになっていた。えでもらいたい」と、松代町民が力を合わせて活動している。松代町民が力を合わせて活動している。松代町民が力を合わせて活動している。

H31.4.20  
週刊長野

記事・写真 中村英美

ながの環境パートナーシップ会議会則

平成21年6月25日  
改正 平成21年10月17日  
一部改正 平成22年6月5日  
一部改正 平成23年6月4日  
一部改正 平成24年6月10日  
一部改正 平成30年6月17日

第1章 総則

(名称)

第1条 本会は、ながの環境パートナーシップ会議と称する。

(事務所)

第2条 本会の事務所は、長野市環境部環境保全温暖化対策課内に置く。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 本会は、長野市域における環境を保全するためのネットワークを築くとともに、地球規模の環境問題へ視野を広げ、地域から地球に広がる環境保全活動を推進することにより、良好な自然環境と生活環境を将来の世代に引き継ぐことを目的とする。

(事業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 「アジェンダ21ながの一環境行動計画」の推進
- (2) 環境保全に関する普及啓発
- (3) 環境保全活動を行う団体等の支援
- (4) 環境の保全と創造に関する提言
- (5) その他前条の目的を達成するために必要な事業

第3章 会員

(会員)

第5条 本会は、目的に賛同する市民及び団体並びに行政機関をもって構成する。

2 会員は、正会員及び本会の活動を支援する賛助会員とする。

(入会)

第6条 本会の会員になろうとするものは、別に定める入会申込書を代表理事に提出し、理事会の承認を得なければならない。

(会費)

第7条 会員は、会費を納入しなければならない。

2 会費は年会費とし、その金額は理事会でこれを定める。

3 既納の会費は、返還しない。

(退会)

第8条 会員は、理事会において別に定める退会届を提出することにより、任意にいつでも退会することができる。

(除名)

第9条 会員が次のいずれかに該当するに至ったときは、総会の決議によって当該会員を除名することができる。

- (1) この会則その他この会則に基づく規程に違反したとき。
- (2) 本会の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。
- (3) その他除名すべき正当な事由があるとき。

(会員資格の喪失)

第10条 会員は、次のいずれかに該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- (1) 第7条の支払義務を2年以上の期間にわたり履行しなかったとき。
- (2) 当該会員が死亡し、又は解散したとき。

#### 第4章 役員

(役員の設定)

第11条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 理事 5人以上10人以内
  - (2) 監事 2人以内
- 2 理事のうち1人を代表理事とする。
  - 3 代表理事以外の理事のうち2人を副代表理事とする。

(役員を選任)

第12条 理事及び監事は、総会の決議によって選任する。ただし、理事のうちの1人は、長野市環境部長の職にある者をもってあてる。

- 2 代表理事及び副代表理事は、理事の互選とする。

(理事の職務及び権限)

第13条 理事は、理事会を構成し、この会則の定めるところにより、職務を執行する。

- 2 代表理事は、この会則の定めるところにより、本会を代表し、その業務を執行する。
- 3 副代表理事は、代表理事を補佐し、代表理事に事故あるときは、その職務を代行する。

(監事の職務及び権限)

第14条 監事は、理事の職務の執行を監査し、監査報告を作成する。

- 2 監事は、いつでも、幹事に対して事業の報告を求め、本会の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(役員任期)

第15条 理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する通常総会の終結の時までとする。

- 2 監事の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する通常総会の終結の時までとする。
- 3 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。
- 4 理事又は監事は、第11条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

第16条 理事及び監事は、総会の決議によって解任することができる。

(顧問)

第17条 本会に、任意の機関として、顧問を置くことができる。

2 顧問は、次の職務を行う。

(1) 代表理事の相談に応じること。

(2) 理事会から諮問された事項について意見を述べること。

3 顧問の選任は、理事会において決議する。

4 顧問の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない

第5章 総会

(種別)

第18条 本会の総会は、通常総会及び臨時総会の2種とする。

(構成)

第19条 総会は、すべての正会員をもって構成する。

(権限)

第20条 総会は、次の事項について決議する。

(1) 会則の変更

(2) 理事及び監事の選任又は解任

(3) 会員の除名

(4) 事業計画及び収支予算

(5) 事業報告及び収支決算

(6) 解散及び残余財産の処分

(7) その他本会に関する重要な事項

(開催)

第21条 通常総会は、毎年度1回開催する。

2 臨時総会は、次の各号のいずれかに該当する場合に開催する。

(1) 理事会が必要と認め招集の請求をしたとき。

(2) 総会員の10分の1以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。

(3) 監事から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。

(招集)

第22条 総会は、理事会の決議に基づき代表理事が招集する。

2 代表理事は、前条第2項各号の規定による請求があったときは、その日から30日以内に臨時総会を招集しなければならない。

3 総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電磁記録をもって、少なくとも5日前までに通知しなければならない。

(議長)

第23条 総会の議長は、その総会に出席した正会員の中から選出する。

(議決権)

第24条 総会における議決権は、正会員1人につき1個とする。

(定足数)

第25条 総会は、正会員の2分の1以上の出席がなければ開会することができない。

(決議)

第26条 総会の議事は、この会則に別に規定するもののほか、出席会員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。この場合において、議長は、正会員として議決に加わる権利を有しない。

(書面主義)

第27条 やむを得ない理由のため総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について、書面をもって表決し、又は代理人に表決を委任することができる。この場合において、前2条の規定の適用については、出席したものとみなす。

(議事録)

第28条 総会の議事については、議事録を作成する。

2 議長及び出席した理事のうち1人以上は、前項の議事録に記名押印する。

第6章 理事会

(構成)

第29条 本会に理事会を置く。

2 理事会は、すべての理事をもって構成する。

(権限)

第30条 理事会は、次の職務を行う。

- (1) 本会の業務執行の決定
- (2) 代表理事及び副代表理事の選定及び解職
- (3) その他本会の運営に関し必要な事項

(招集)

第31条 理事会は、次の各号のいずれかに該当する場合に開催する。

- (1) 代表理事が必要と認めたとき。
- (2) 理事総数の2分の1以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。
- (3) 監事から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。

(決議)

第32条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 理事が、理事会の決議の目的である事項について提案した場合において、その提案について、議決に加わることのできる理事の全員が書面又は電磁記録により同意の意思表示をしたときは、その提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなす。ただし、監事が異議をのべたときは、その限りでない。

(会議記録)

第33条 理事会の議事については、確認事項等を記載した会議記録を作成する。

第7章 プロジェクトチーム等

(プロジェクトチーム)

第34条 第4条に規定する事業を推進するため、プロジェクトチームを置くことができる。

- 2 プロジェクトチームは、希望する会員をもって構成する。
- 3 プロジェクトチームは、会議、ワークショップ、講演会、研修会の開催、事業化に向



けた調査研究等の具体的な活動を実施する。

(プロジェクト実施会議)

第35条 第4条に定める事業を推進するため必要と認められる場合、プロジェクト実施会議を開催することができる。

2 プロジェクト実施会議は、プロジェクトチーム、長野市関係課、顧問等事業の推進に必要な者及び事務局又は理事をもって構成する。

#### 第8章 事務局

(設置等)

第36条 本会の事務を処理するため、事務局を置く。

2 事務局に、事務局長及び所要の職員を置く。

3 事務局長及び職員は、代表理事が任命する。

4 事務局の組織及び運営に関し必要な事項は、理事会の承認を経て、代表理事が別に定める。

#### 第9章 資産及び会計

(資産の構成)

第37条 本会の資産は、次に掲げる事項をもって構成する。

(1) 会費

(2) 寄付金品

(3) 事業に伴う収入

(4) 資産から生ずる収入

(5) その他の収入

(資産の管理)

第38条 資産は、代表理事が管理し、その方法は、理事会の決議を経て代表理事が別に定める。

(経費の支弁)

第39条 本会の経費は、資産をもって支弁する。

(事業年度)

第40条 本会の事業年度は、毎年6月1日に始まり翌年の5月31日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

第41条 本会の事業計画及び収支予算は、毎事業年度の開始の日の前日までに、代表理事が作成し、理事会の決議を経て、総会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

2 前項の書類については、当該事業年度が終了するまでの間、事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(暫定予算)

第42条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、代表理事は、理事会の決議を経て、予算の成立の日まで前年度の予算に準じ収入支出することができる。

2 前項の収入支出は、新たに成立した予算の収入支出とみなす。

(事業報告及び決算)

第43条 本会の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、代表理事が次の書類を作成し、監事の監査を経て、通常総会に報告しなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 収支決算書
- (4) 収支決算書の附属明細書
- (5) 財産目録

第10章 会則の変更及び解散

(会則の変更)

第44条 この会則は、総会の決議によって変更することができる。

(解散)

第45条 本会は、総会の決議その他法令で定められた事由により解散する。

(財産の贈与)

第46条 本会が解散する場合には、総会の決議を経て、財産残額に相当する額の財産を、地方公共団体に贈与するものとする。

第11章 公告の方法

(公告の方法)

第47条 本会の公告は、電子公告により行う。

- 2 事故その他やむを得ない事由によって前項の電子公告をすることができない場合は、事務所の公衆の見やすい場所に掲示する方法による。

附 則

(施行期日)

- 1 この会則は、平成21年10月17日から施行する。

(経過措置)

- 2 最初の総会は、ながの環境パートナーシップ会議会則（平成13年5月8日制定。以下「旧会則」という。）第4条第1項各号に規定する者が招集することができる。
- 3 この会則の施行の日前に旧会則の規定に基づく会員であったものは、第6条の規定に関わらず、本会の会員とする。
- 4 本会の会費は、平成22年5月31日までの間は、第7条第1項の規定にかかわらず、納入を要しない。

(役員の特例)

- 5 最初の総会で選任される幹事及び監事の任期は、第15条第1項及び第2項の規定にかかわらず、平成22年に開催される通常総会の終結の時までとする。

附 則

この会則は、平成21年10月17日から施行する。

附 則

この会則は、平成22年6月5日から施行する。

附 則

この会則は、平成 23 年 6 月 4 日から施行する。

附 則

この会則は、平成 24 年 6 月 10 日から施行する。

附 則

この会則は、平成 30 年 6 月 17 日から施行する。

